# 馬場東矢次遺跡

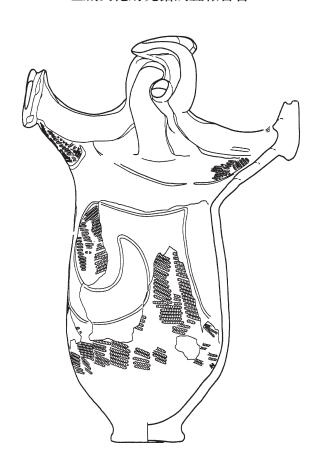
農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

2007. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調查団

# 馬場東矢次遺跡

農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書



2 0 0 7. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



馬場東矢次遺跡全景(南から)



H-1号焼失住居跡(南から)



JD-6号縄文土坑遺物出土状況(北から)



馬場東矢次遺跡出土 縄文土器

# はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡で知られるように旧石器時代から開けてきた地域で、いたるところで旧石器時代や縄文時代の遺跡が発見されています。

古代において前橋台地を中心に、800余りの古墳が築造されました。東国 古墳文化の中心地として栄え、今でも9基もの国史跡指定となる古墳が存 在します。

続く律令制の時代に入ると、総社古墳群から連綿と続く山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など「クニ」の中枢施設が次々に造られ、政治・宗教・学問の中心として繁栄いたしました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸により、横浜と前橋を結ぶシルクロードが開かれ、文化交流が始まりました。このように本市は、歴史溢れる豊かなまちです。

本報告書に掲載いたしました馬場東矢次遺跡の発掘調査は、農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴うもので、縄文時代から平安時代にかけての集落跡など数多くの遺構や遺物が発見され、地域の歴史を知る上で貴重な資料が提示できたものと考えます。

発掘調査にあたりましては、ご協力をいただきました馬場地区の方々、 市農村整備課、調査に従事されました方々に厚く御礼申し上げます。

なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成19年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団 長 根 岸 雅

# 例 言

- 1. 本報告書は、農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴う馬場東矢次遺跡発掘調査報告書である。
- 2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
- 3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調 査 場 所 群馬県前橋市馬場町422番地8

発掘調査期間 平成18年5月16日~平成18年8月18日

整理・報告書作成期間 平成18年12月11日~平成19年3月22日

発掘·整理担当者 髙橋 亨·神宮 聡 (発掘調査係員)

- 4. 本書の原稿執筆・編集は髙橋・神宮が行った。
- 5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。 青木昭二郎・伊藤修道・植木政俊・高橋公代・多田啓子・角田節子・角田昌幸・長澤幸枝・中林美智子・ 奈良啓子・橋本ちづる・細野進太郎・堀込とよ江・弥郡啓吾
- 6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財 保護課で保管されている。

# 凡例

- 1. 挿図はすべて座標北にした。
- 2. 挿図に国土地理院発行の 1/200,000地形図 (宇都宮)、1/50,000地形図 (鼻毛石)、1/2,000前橋市現形図を使用した。
- 3. 遺跡の略称は、次のとおりである。馬場東矢次遺跡:18 J 1
- 4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

J …縄文時代の竪穴住居跡 H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡 W…溝跡

B…掘建柱建物跡 JD…縄文時代土坑 D…土坑

P…ピット・貯蔵穴(古墳・奈良・平安住居内P5を貯蔵穴とした。)

5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。遺構 住居跡・溝跡・土坑・ピット… 1/60 電断面図… 1/30 全体図… 1/200

遺物 土器・鉄製品…1/1、1/2、1/3、1/4 石器・石製品…1/2、1/3、2/3、1/4

- 6. 計測値については、( ) は現存値、[ ] は復元値を表す。
- 7. セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。
  - ◎ 非常に締まり・粘性あり 締まり・粘性あり

△ 締まり・粘性ややあり × 締まり・粘性なし

8. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図 焼 土…

灰…

遺物実測図 須恵器断面…

灰釉陶器断面…

灰釉陶器内外面·



9. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B軽石:供給火山・浅間山、1108年)

Hr-FP (榛名二ッ岳伊香保テフラ:供給火山・榛名山、6世紀中葉)

Hr-FA (榛名二ッ岳渋川テフラ:供給火山・榛名山、6世紀初頭)

As-C (浅間C軽石:供給火山・浅間山、4世紀前半~中葉)

# 目 次

	は	じ		め	に		i
	例	計	•	凡	例	j	ii
Ι	調	査に	至	る経	緯		1
II	遺	跡の	位置	と環	境		1
III	調	査	0	経	過		5
IV	基	本	÷	層	序		6
V	遺	構	٤	遺	物	······································	7
VI	ŧ		٤		め	1	16

# 挿 図

- Fig. 1 位置図
  - 2 遺跡周辺図
  - 3 周辺遺跡図
  - 4 基本層序
  - 5 遺跡全体図
  - 6 J-1 ⋅ 2 号住居跡、D-4 号土坑
  - 7 H-1~3号住居跡
  - 8 H-4号住居跡
  - 9 H-4 · 6 号住居跡
  - 10 H-5・7号住居跡、D-1号土坑
  - 11 H-8 · 9 号住居跡
  - 12 H-10·11号住居跡
  - 13 B-1号掘建柱建物跡、JD-1~6号縄文土坑 26 石製品・鉄製品

- 14 D-2・3・5~9号土坑、P-24号ピット
- 15 W-1~3号溝跡
- 16 縄文土器
- 17 縄文土器
- 18 縄文土器
- 19 縄文土器
- 20 縄文土器
- 21 縄文土器·石器
- 22 古墳奈良平安時代の土器
- 23 古墳奈良平安時代の土器
- 24 古墳奈良平安時代の土器
- 25 古墳奈良平安時代の土器、石棒

#### 図 版

- 口絵1 調査区全景(南から)
  - 2 H-1号焼失住居跡(南から)
  - 3 JD-6号縄文土坑遺物出土状況(北から)
  - 4 馬場東矢次遺跡出土 縄文土器
- PL. 1  $J-1 \cdot 2$ 、 $H-1 \sim 3$  号住居跡
  - 2 H-4~9号住居跡
  - 3 H-9~11号住居跡、B-1号掘建柱建物跡、 JD-5・6号土坑跡、グリッド遺物出土状況

- 4 縄文土器
- 5 縄文土器
- 6 縄文土器
- 7 縄文土器、石器
- 8 古墳~平安時代の土器
- 9 古墳~平安時代の土器
- 10 古墳~平安時代の土器
- 11 石器、石製品

# 表

- Tab. 1 竪穴住居跡計測表
  - 2 溝跡計測表
  - 3 土坑計測表
  - 4 ピット計測表
  - 5 縄文土器観察表

- 6 古墳·奈良·平安時代土器観察表
- 7 石器観察表
- 8 石製品観察表
- 9 鉄製品観察表
- 10 古墳•奈良•平安時代竪穴住居跡時代別比較表

# Ⅰ 調査に至る経緯

平成18年2月8日付けで、前橋市長 高木 政夫 より農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸 雅 に対し、調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。

平成18年4月27日、調査依頼者である前橋市長 高木 政夫 と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸 雅 との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月16日に現地での発掘調査を開始するに至った。

# II 遺跡の位置と環境

## 1 遺跡の位置

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、 北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地(洪積台地)利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根 川左岸、東部の広瀬川低地帯(洪積低地)の4つの地域に分けられる。

本遺跡の位置する馬場町は前橋市の東方にあり、前橋市宮城支所の東南東約2.0kmの赤城火山斜面に位置する。 この町の周りには、鼻毛石・大前田・苗ヶ島町、粕川町月田・室沢が存在している。遺跡地の地番は前橋市馬場 町422番地8である。遺跡地の周辺には、のどかな田園風景が広がっており、民家が点在している。(Fig. 2)

## 2 歴史的環境 {遺跡名の後の() 付数字は、Fig. 3 の遺跡番号と対応する。}

宮城地区の周辺遺跡について歴史的に概観する。

【旧石器時代】旧石器時代最終末の細石器文化の遺跡が発見、調査されている。故相沢忠洋氏により発見され、著名な桝形遺跡(4)をはじめとして、苗ヶ島大畑遺跡(5)、市之関前田遺跡(6)、市之関吉ヶ沢遺跡(7)がある。

【縄文時代】本地区では縄文時代の遺跡が最も多い。生活域として、また落し穴猟を中心とした狩猟域として、 本地区が活発に利用されていたことが窺える。以下時期を追って代表的な遺跡を概観していく。

草創期の遺跡としては、苗ヶ島大畑遺跡や柏倉落合遺跡 (2) が挙げられる。前者は、条痕文系土器期の住居跡や炉穴・袋状土坑・集石土坑・落とし穴等が検出され、田戸下層式土器等の沈線文系土器や押型文土器、鵜が島台式~茅山上層式の条痕文系土器が多量に出土している。後者では、包含層遺物ながら鵜が島台式土器等の条痕文系土器が多量に出土している。その他に市之関前田遺跡や苗ヶ島白山遺跡 (8)・同Ⅲ遺跡 (9) 等で沈線文~条痕文期の土器が少量ながら出土している。

前期前葉の二つ木式期では柏倉芳見沢遺跡 (3) 等があり、該期の住居跡が検出されている。後続する関山式期では、市之関遺跡 (11) (指定名称:市之関縄文前期遺跡/13) や、その南方に位置する市之関前田遺跡等があり、それぞれ住居跡等が検出されている。前期中葉の黒浜・有尾式期では、柏倉大沢遺跡 (12) で該期の住居跡や土坑が検出された。後半の諸磯式期の遺跡としては市之関前田遺跡があり、諸磯 a 式土器が僅かに出土している。ほかにいくつかの遺跡にて前期中葉~中期初頭の遺物が少量出土している。

中期の遺跡としては、中期前半~中葉の環状集落である鼻毛石中山遺跡(14)がある。翡翠製の大珠が検出された中央広場を中心として、土坑群が環状に配置され、その外側に住居跡が巡る構成をとる。また遺跡の南半分

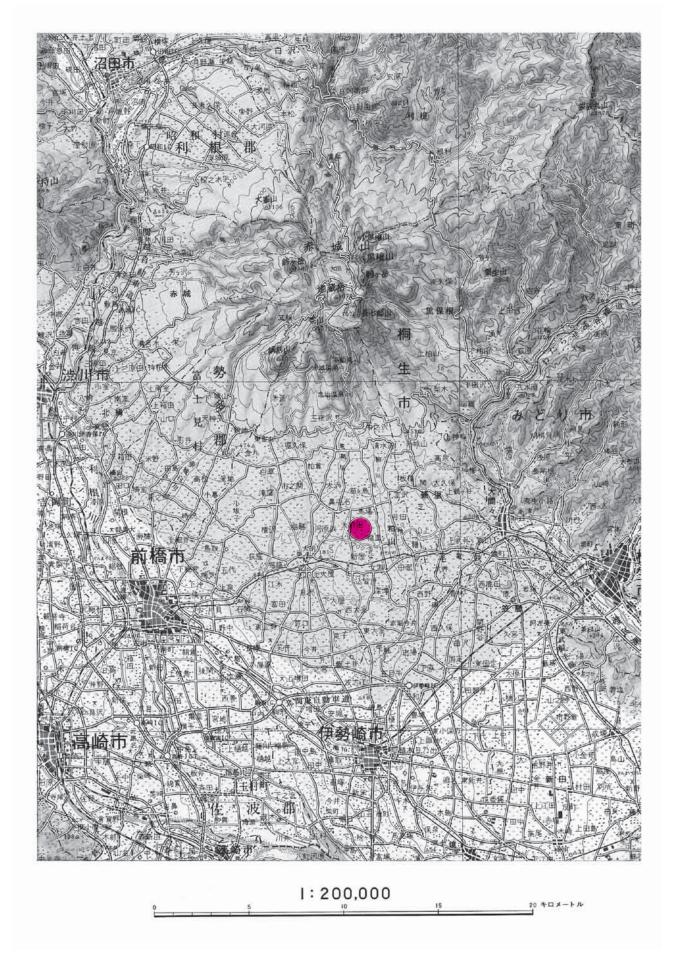


Fig. 1 位置図

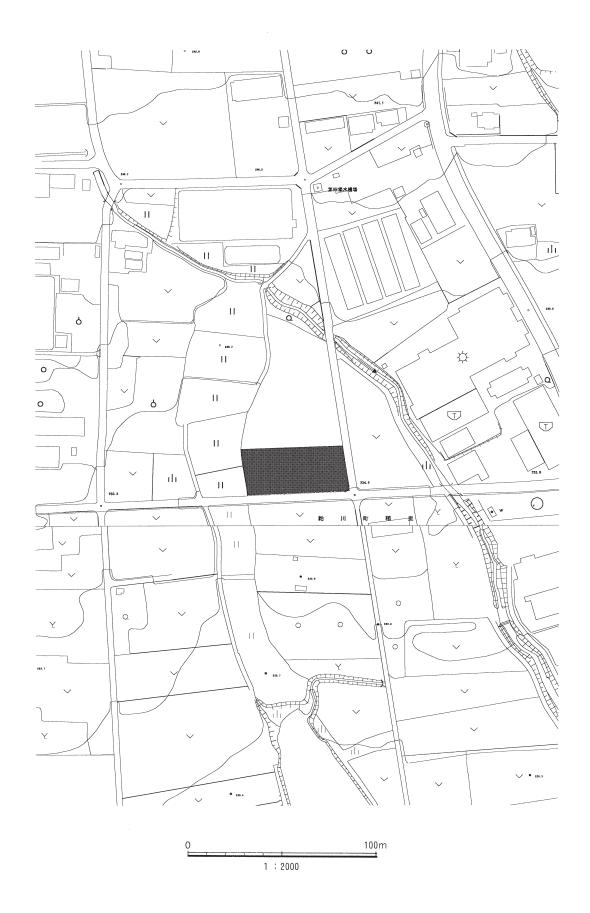
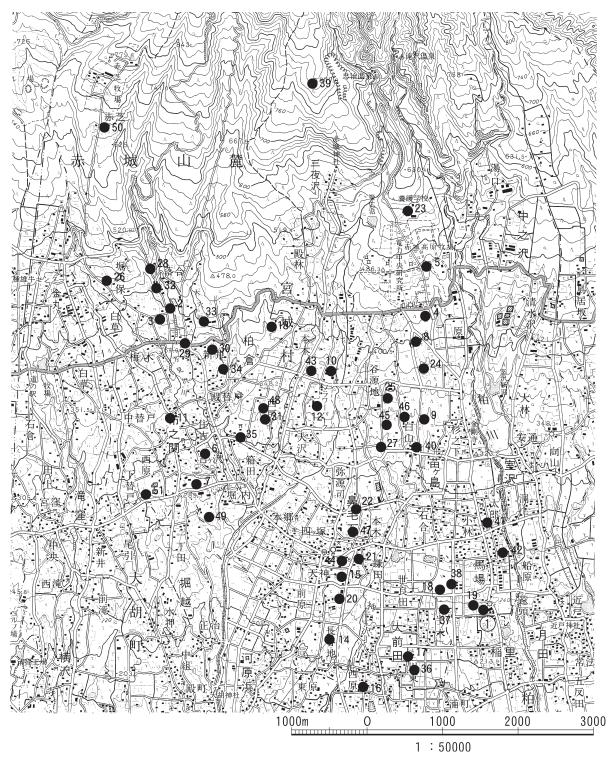


Fig. 2 遺跡周辺図



1:馬場東矢次遺跡(本遺跡) 2:柏倉落合遺跡 3:柏倉芳見沢遺跡 4:桝形遺跡 5:苗ヶ島大畑遺跡 6:市 之関前田遺跡 7:市之関吉ヶ沢遺跡 8:苗ヶ島白山遺跡 9:苗ヶ島白山III遺跡 10:柏倉大沢II遺跡 11:市之関遺跡 12:柏倉大沢遺跡 13:柏倉殿林遺跡 14:鼻毛石中山遺跡 15:鼻毛石鎌田II遺跡 16:大前田上十二遺跡 17:大前田天神遺跡 18:馬場西山遺跡 19:馬場東矢次 I・II遺跡 20:鼻毛石鎌田 II遺跡 21:鼻毛石鎌田III遺跡 22:鼻毛石赤坂 I 遺跡 23:苗ヶ島大畑II遺跡 24:苗ヶ島白山 II遺跡 25:苗ヶ島片並木遺跡 26:柏倉(市之関)十文字遺跡 27:鼻毛石弥源寺遺跡 28:柏倉相吉遺跡 29:柏倉下石倉遺跡 30:柏倉新井橋遺跡 31:柏倉西房遺跡 32:No2227遺跡 33:No2228遺跡 34:No2229遺跡 35:No2230遺跡 36:No2236遺跡 37:No2237遺跡 38:No2250遺跡 39:櫃石遺跡 40:白山古墳 41:新山 I・II号墳 42:古屋敷古墳 43:No2239遺跡 44:一本木土師遺跡 45:苗ヶ島片並木遺跡 46:苗ヶ島山王遺跡 47:鼻毛石赤坂 II 遺跡 48:柏倉甲大前遺跡 49:市之関吉沢遺跡 50:No2238遺跡 51:No2251遺跡

Fig. 3 周辺遺跡図

において盛土遺構も確認されている。中期後葉の遺跡としては鼻毛石鎌田 II 遺跡 (15) や市之関前田遺跡があり、前者は加曽利 E 3  $\sim$  E 4 式期の住居跡が24軒検出され、それぞれ拠点的な集落のひとつと考えられる。ほかに、大前田上十二遺跡 (16) や大前田天神遺跡 (17) でも中期の土坑等が検出されている。

後期は、中期に比べて遺跡数は減少するが、馬場東矢次 I・II 遺跡 (19) より、包含層遺物ながら堀之内式〜安行式期の遺物が多量に出土している。また、市之関前田遺跡や鼻毛石中山遺跡からも後期の遺物が少量出土している。

晩期の遺跡の調査は行われていないが、鼻毛石町地内の荒砥川沿いの本郷地区にて少量表採されている。

なお、縄文時代の所産と見られる落とし穴は宮城地区内の各地で検出されている。苗ヶ島大畑遺跡・苗ヶ島大畑II遺跡 (23)・苗ヶ島白山II遺跡 (24)・同III遺跡・柏倉落合遺跡・柏倉芳見沢遺跡・柏倉相吉遺跡 (28)・柏倉下石倉遺跡 (29)・柏倉大沢遺跡・柏倉 (市之関) 十文字遺跡 (26)・市之関前田遺跡・市之関吉ヶ沢遺跡・鼻毛石弥源寺遺跡 (27)・鼻毛石赤坂 I 遺跡 (22)・鼻毛石鎌田 I 遺跡 (20)・鼻毛石鎌田III遺跡 (21)・鼻毛石中山遺跡等多くの遺跡で検出されている。

## 【弥生時代】

弥生時代の遺跡は発見されていないが、柏倉芳見沢遺跡・柏倉(市之関)十文字遺跡で中期後半〜後期の土器 片が出土している。

#### 【古墳時代】

古墳時代に入っても遺跡数はあまり増加しないが、中期の祭祀遺跡であり、群馬県指定史跡である櫃石遺跡(39)では、手捏ね土器や滑石製模造品等の祭祀遺物が豊富に出土している。また古墳としては、白山古墳(40)、新山 I・II号墳(41)、古屋敷古墳(42)があり、白山古墳では佐波理鋺や和同開珎・蕨手太刀等の特異な遺物が出土している。

## 【奈良・平安時代】

奈良・平安時代になると遺跡数は若干ながら増加し、再び生活域・生産域として本地区が利用されるようになる。集落遺跡としては、苗ヶ島片並木遺跡(25)や苗ヶ島山王遺跡(46)・柏倉(市之関)十文字遺跡・市之関前田遺跡・一本木土師遺跡(44)等があり、いずれも9~10世紀を中心にした集落である。また柏倉(市之関)十文字遺跡は、付近で小金銅仏が表面採集されているなど、その集落の性格に特異性がみられる。生産跡遺跡としては、県内の生産跡遺跡の先駆的調査ともなった、市指定史跡の苗ヶ島片並木遺跡(指定名称:製鉄片並木跡/45)があり、製鉄炉や住居跡等が検出されている。また炭窯は、柏倉芳見沢遺跡や柏倉甲大前遺跡(48)・市之関吉沢遺跡等で検出されている。

## 【中近世】

中近世の遺跡としては市之関前田遺跡があげられ、中近世の所産と見られる堀跡・溝跡や近世の掘立柱建物跡 等が検出されている。また、地区内数箇所で城跡・砦跡が検出されている。

# Ⅲ 調査の経過

## 1 調査方針

グリッドは、4 mピッチで西から東へX 0 、1 、2 、3 、…と、北から南へY 0 、1 、2 、3 、…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

馬場東矢次遺跡のX0・Y0の公共座標は次のとおりである。

X = 48040.000 Y = -56824.000

調査方法については、表土掘削・遺構確認・杭打設・遺構掘下げ・遺構精査・全景写真・測量の手順で行った。 遺構確認では、ローム漸移層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を行い、住居跡は1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納したが、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

## 2 調査経過

5月16日、重機(バックフォー0.65㎡)による表土掘削を開始した。表土掘削に2日かかり、並行して鋤簾による遺構確認を表土約50㎝深のローム漸移層で行った。攪乱は少なく比較的良好な状況であった。5月19日に杭打ちを行い、遺構の掘下げ・精査に入った。遺構精査の結果、古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡11軒、掘立柱建物1棟、溝跡3条、土坑9基が検出された。7月11日に高所作業車による全体写真撮影を行った。

その後、調査区中央部から東部を中心に 2 mグリッドを設定し、土師面より20~30cmほど掘り下げ、縄文面の精査を行った。これは、ローム漸移層上部のAs-C軽石混土層から縄文時代後期の土器片が多数出土したためである。遺構精査の結果、縄文住居 2 軒、縄文土坑 6 基が検出された。

8月7・8日と調査区の埋め戻しを行い、8月18日をもって調査を終了した。

その後、元総社蒼海遺跡群(11)発掘調査があり、12月7日から文化財保護課に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業にあたった。3月16日、遺物・図面・写真等の整理作業をすべて終了した。

# Ⅳ 基本層序

遺構確認面は現地表面から約50cmのローム漸移層で行った。地形は北から南へ緩やかに下がっている。

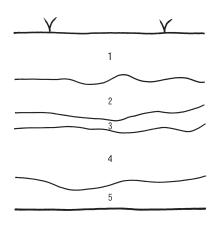


Fig. 4 基本層序

- 1 現耕作土
- 3 黒褐色土 △○ As-C 5 % Hr-FA 2 %
- 4 暗褐色土 △△ As-C 2% ローム漸移層
- 5 褐色土 ◎○ ローム層

# V 遺構と遺物

#### (1) 竪穴住居跡

#### J-1号住居跡 (Fig. 6、PL. 1)

位置 X 1・2、Y 0 グリッド 主軸方向 N-90°-E 面積 (3.19) ㎡ 形状等 楕円形と推定される。長径 (4.50) m、短径 (1.20) m、壁現高は7.0㎝を測る。 床面 堅緻。 炉 検出されず。 時期 埋土や出土 遺物から縄文時代後期 (堀之内 I 式) と考えられる。 遺物 総数160点、そのうち縄文土器 2 点、石鏃 1 点を図示。

#### **J-2号住居跡**(Fig. 6、PL. 1)

位置 X 2・3、Y 1・2 グリッド 主軸方向 N-20°-E 面積 7.41㎡ 形状等 楕円形。長径3.41m、短径2.34m、壁現高は12.0cmを測る。 床面 平坦。 炉 検出されず。 時期 埋土や出土遺物から縄文時代後期(堀之内 I 式)と考えられる。 遺物 総数67点、そのうち縄文土器 1 点を図示。

#### H-1号住居跡(Fig.7、PL.1)

位置 X 2・3、Y 3・4 グリッド **主軸方向** N-85°-E **面積** 12.42㎡ **形状等** 長方形。東西4.50m、南北2.94m、壁現高は32.5㎝を測る。 **床面** 堅緻。 **電** 東壁中央部から検出され、主軸方向N-85°-Eであり、全長100㎝、最大幅48㎝、焚口部幅30㎝を測る。 **貯蔵穴** あり。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。 **遺物** 総数437点、そのうち高台境 4 点、甕 2 点、羽釜 1 点、砥石 1 点、角釘 1 点、刀子 1 点を図示。

#### H-2号住居跡 (Fig.7、PL.1)

位置 X 3・4、Y 5 グリッド 主軸方向 (N-117°-E) 面積 (1.85) ㎡ 形状等 方形と推定される。 東西 (2.42) m、南北 (1.54) m、壁現高24.5cmを測る。 床面 堅緻。 電 検出されず。 貯蔵穴 不明。 時期 埋土や出土遺物から 6 世紀後半~12世紀初頭以前と考えられる。遺物 総数175点。

#### H-3号住居跡 (Fig.7、PL.1)

位置 X 5・6、Y 0 グリッド 主軸方向 N-88°-E 面積 (5.79) ㎡ 形状等 方形と推定される。東西 3.68m、南北 (1.66) m、壁現高65.0cmを測る。 床面 堅緻。 竈 東壁から検出され、主軸方向N-98°-E であり、全長114cm、最大幅56cm、焚口部幅42cmを測る。 貯蔵穴 不明。 時期 埋土や出土遺物から 8 世紀中葉と考えられる。 遺物 総数155点、そのうち坏1点を図示。

#### H-4号住居跡 (Fig. 8・9、PL. 2)

位置 X6~8、Y0~2 グリッド 主軸方向  $N-93^\circ-E$  面積  $46.44m^\circ$  形状等 長方形。東西7.34m、南北6.66m、壁現高65.0cmを測る。 床面 非常に堅緻。 電 東壁南寄りから検出され、主軸方向 $N-106^\circ-E$ であり、全長152cm、最大幅120cm、焚口部幅46cmを測る。 貯蔵穴 あり。 時期 埋土や出土遺物から 6 世紀後半と考えられる。 遺物 総数4,734点、そのうち坏8点、蓋2点、甕2点を図示。

#### H-5号住居跡 (Fig.10、PL.2)

位置 X 7・8、Y 0 グリッド **主軸方向** N-89°-E **面積** (5.46) ㎡ **形状等** 方形と推定される。東西 3.80m、南北 (1.54) m、壁現高51.5cmを測る。 **床面** 非常に堅緻。 竈 東壁から検出され、主軸方向N-84°-Eである。 **貯蔵穴** 不明。 **時期** 埋土や出土遺物から 8 世紀中葉と考えられる。 **遺物** 総数321点、そのうち坏 3 点、甕 1 点を図示。

#### H-6号住居跡 (Fig.9、PL.2)

位置 X9・10、Y5グリッド **主軸方向** N-90°-E **面積** (5.72) m³ **形状等** 方形と推定される。東西 (4.68) m、南北 (1.62) m、壁現高20.0cmを測る。 **床面** 堅緻。 **電** 不明。 **貯蔵穴** 不明。 **時期** 埋 土や遺物から6世紀後半~12世紀初頭以前と考えられる。**遺物** 総数63点。

#### H-7号住居跡(Fig.10、PL.2)

位置  $X 9 \cdot 10$ 、 $Y 2 \cdot 3$  グリッド 主軸方向  $N-94^{\circ}-E$  面積 [12.09]  $m^{\circ}$  形状等 長方形。東西3.30 m、南北3.98 m、壁現高34.5 cm を測る。 床面 非常に堅緻。 竈 東壁やや南寄りから検出され、主軸方向 $N-94^{\circ}-E$  であり、全長74 cm、最大幅88 cm、焚口部幅44 cmを測る。 貯蔵穴 あり。 重複 D-1 号土坑と重複しており、新旧関係は本遺構 D-1 号土坑である。 時期 埋土や出土遺物から 9 世紀代と考えられる。 遺物 総数1.253 点、そのうち坏2 点、甕1 点、石製紡錘車1 点を図示。

#### H-8号住居跡 (Fig.11、PL.2)

位置 X10・11、Y4・5 グリッド **主軸方向** N-87°-E **面積** (11.09) ㎡ **形状等** 方形と推定される。 東西3.74m、南北 (3.28) m、壁現高50.5cmを測る。 **床面** 非常に堅緻。 **電** 東壁から検出され、主軸方向 N-83°-Eであり、全長112cm、最大幅96cm、焚口幅38cmを測る。 **貯蔵穴** 不明。 **時期** 埋土や出土遺物から 8 世紀中葉と考えられる。 **遺物** 総数238点、そのうち坏1点、高台境1点、蓋1点、甕1点を図示。

# **H−9号住居跡**(Fig.11、PL.2 • 3)

位置 X10・11、Y 1・2 グリッド 主軸方向 N-84°-E 面積 [20.21] ㎡ 形状等 長方形。東西4.28m、南北5.14m、壁現高50.5cmを測る。 床面 非常に堅緻。 竈 東壁やや南寄りから検出され、主軸方向N-88°-Eであり、全長 [68] cm、最大幅 [74] cm、焚口部幅 [54] cmを測る。 貯蔵穴 あり。 時期 埋土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。 遺物 総数1,636点。そのうち坏 9 点、高台境 1 点、蓋 1 点、甑 1 点、甕 6 点を図示。

# H − 10号住居跡 (Fig.12、PL.3)

位置 X11・12、Y-0グリッド **主軸方向** N-86°-E **面積** (6.06) ㎡ **形状等** 方形と推定される。東西3.04m、南北 (2.08) m、壁現高7.5cmを測る。 **床面** 堅緻。 **電** 東壁から検出され、主軸方向 (N-86°-E) であり、全長104cm、最大幅104cm、焚口部幅30cmを測る。 **貯蔵穴** 不明。 **時期** 埋土や出土遺物から 8世紀中葉と考えられる。 **遺物** 総数28点。

#### H-11号住居跡 (Fig.12、PL.3)

位置 X 4・5、Y 0~2 グリッド 主軸方向 N-103°-E 面積 [12.68] ㎡ 形状等 [長方形] 東西 [3.56] m、南北4.04m、壁現高22.0cmを測る。 床面 堅緻。 竈 東壁やや南寄りから検出され、主軸方向 (N-95°-E) であり、全長 [100] cm、最大幅76cm、焚口部幅24cmを測る。 貯蔵穴 検出されず。 時期 埋土や出土遺物から9世紀代と考えられる。 遺物 総数171点、そのうち坏 2 点、鉢 1 点、甕 2 点、釘 1 点、鎌 1 点を図示。

#### (2) 掘立柱建物跡

#### B-1号掘立柱建物跡 (Fig.13、PL.3)

位置  $X4\sim6$ 、 $Y4\cdot5$  グリッド 主軸方向  $N-81^{\circ}-E$  面積 [11.59]  $m^{\circ}$  形状等 [長方形] 東西 2 間 5.02 m、南北 2 間 2.50 m。東西 5 尺 +6 尺 +5 尺、南北 6 尺。 柱穴 平面は円形と楕円形、断面は円筒形とお 椀形。径は $30\sim64$  cm、深さ $25.0\sim47.5$  cm。 時期 埋土から 6 世紀後半~12 世紀初頭以前と考えられる。 遺物 本遺構に関する遺物の出土はなかった。

## (3) 溝 跡

# W−1号溝跡(Fig.15)

位置  $X 0 \times Y 0 \sim 5$  グリッド 主軸方向  $N-10^{\circ}-W$  形状等 調査区を南北に走り、 $W-2 \cdot 3$  と交わる。 重複  $W-2 \cdot 3$  と重複し、新旧関係は $W-3 \rightarrow W-2 \rightarrow$  本遺構の順である。 時期 埋土や出土遺物から 6 世 紀後半~12世紀初頭以前と考えられる。 遺物 総数 3 点。

#### W-2号溝跡 (Fig.15)

位置  $X 0 \cdot 1$ 、 $Y 2 \sim 5$  グリッド 主軸方向 N-7°-W 形状等 調査区を南北に走り、 $W-1 \cdot 3$  と交わる。 **重複**  $W-1 \cdot 3$  と重複し、新旧関係はW-3 →本遺構  $\rightarrow W-1$  の順である。 **時期** 埋土や出土遺物から 6 世紀後半~12世紀初頭以前と考えられる。 **遺物** 総数38点。

## W-3号溝跡 (Fig.15)

位置 X 0、 $Y 0 \sim 2$  グリッド 主軸方向 N-3  $^{\circ}-W$  形状等 調査区を南北に走り、W-1  $^{\bullet}$   $^{\circ}$   $^{\bullet}$  2 と変わる。 **重複** W-1  $^{\bullet}$   $^{\bullet}$   $^{\bullet}$   $^{\bullet}$  2 と重複し、新旧関係は本遺構 W-2  $^{\bullet}$   $^{\bullet}$ 

#### (4) 土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab.3 土坑計測表、Tab.4 ピット計測表を参照のこと。遺物総数223点、そのうちJD-2号土坑の深鉢1点、JD-4号土坑の深鉢1点、JD-5号土坑の深鉢3点、JD-6号土坑の蓋1点、深鉢13点、打製石斧1点、多孔石1点を図示。

#### (5) グリッド等出土遺物

総数6,044点。そのうち深鉢68点、浅鉢1点、石鏃1点、石錐1点、打製石斧2点、擦石1点、石棒1点を図示。

Tab.1 竪穴住居跡計測表

			夷	見模(m)				炉•	竈		Ē	Eな出土遺物	勿
遺構名	位	置	東西	南北	壁現高	面積 (m²)	主軸方向	位 置	構築材	周溝	土師器	須恵器	その他
			[長径]	[短径]	(cm)				神柔和			灰心吅	C07  E
J - 1	X 1 • 2	Y 0	(4.50)	(1.20)	7.0	(3.19)	N -90° - E	_	-	_			縄文土器 石鏃
J - 2	X 2 · 3	Y 1 • 2	3.41	2.34	12.0	7.41	N - 20° - E	_		_		 	縄文土器
H-1	X 2 · 3	Y 3 • 4	4.50	2.94	32.5	12.42	N -85° - E	東壁中央	石	_	蓰	高台埦 羽釜	灰釉高台 埦 砥石 釘 刀子
H-2	X 3 • 4	Y 5	(2.42)	(1.54)	24.5	(1.85)	(N-117°-E)	_		_			1
H-3	X 5 • 6	Y 0	3.68	(1.66)	65.0	(5.79)	N -88°-E	東壁	粘土・石	0		坏	1
H-4	$X 6 \sim 8$	$Y\ 0 \sim 2$	7.34	6.66	65.0	46.44	N -93°-E	東壁南	粘土	0	坏 甕	坏 蓋	1
H - 5	X 7 • 8	Y 0	3.80	(1.54)	51.5	(5.46)	N -89° - E	東壁	粘土・石	0	坏 甕	坏	1
H - 6	X 9 • 10	Y 5	(4.68)	(1.62)	20.0	(5.72)	N -90° - E	_	_	_			1
H - 7	X 9 • 10	Y 2 • 3	3.30	3.98	34.5	[12.09]	N - 94° - E	東壁やや南	粘土・石	0	坏 甕	坏	紡錘車
H – 8	X10 • 11	Y 4 • 5	3.74	(3.28)	50.5	(11.09)	N -87° - E	東壁	粘土·石	0	坏 甕	蓋 高台 城	
H – 9	X10 • 11	Y 1 • 2	4.28	5.14	50.5	[20.21]	N-84°-E	東壁やや南	粘土·石	0	坏 盤 小壺 小甕 甑	皿 坏蓋	
H-10	X11 • 12	Y 0	3.04	(2.08)	7.5	(6.06)	N -86° - E	東壁	粘土・石	_			1 1 1 1
H-11	X 4 • 5	$Y \ 0 \sim 2$	[3.56]	4.04	22.0	[12.68]	N-103°-E	東壁やや南	粘土·石	_	甕	坏 埦 甕	釘•鎌

Tab. 2 溝跡計測表

遺構名	位	置	長さ	深さ	(cm)	上帧	畐(cm)	下帽	畐(cm)	主軸方向	断面形
退阱石	71/	旦	(m)	最大	最小	最大	最小	最大	最小	土釉刀内	附旧加
W-1	X 0	$Y~0\sim 5$	[21.92]	78.5	8.0	80	40	40	12	N-10°-W	逆台形
W- 2	X 0 · 1	Y $2\sim5$	[14.80]	48.0	16.5	60	40	30	10	N - 7 °-W	V字形
W-3	X 0	$Y \ 0 \sim 2$	[7.54]	32.0	6.0	82	42	50	16	N - 3 °-W	逆台形

Tab. 3 土坑計測表

遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	旧番号	備考	
JD- 1	X 1 • 2	Y 1 • 2	150	104	45.5	楕円形				
JD- 2	X10	Y 4	156	96	28.0	楕円形	深鉢			
JD- 3	X 4	Y 2 ∼ 3	140	78	24.0	長方形				
JD- 4	X 3	Y $4\sim5$	[272]	80	42.0	不定形	深鉢			
JD- 5	X 5 • 6	Y 2	132	124	136.5	楕円形	深鉢		フラスコ状	
JD- 6	X 3 • 4	Y 2	[180]	[120]	26.0	[楕円形]	深鉢 蓋 打製石斧	O - 2		
D-1	X 9 • 10	Y 2	132	[80]	32.5	[楕円形]				
D - 2	X 1	Y 1	250	90	16.0	[長方形]				
D – 3	X 3	Y 4	74	62	16.5	楕円形				
D - 4	X 0 · 1	Y 0	92	(58)	45.0	(円形)				
D - 5	X 5	Y 3	150	132	20.5	楕円形				
D - 6	X 6	Y 5	96	94	35.0	円形				
D - 7	X11	Y 3 • 4	200	106	19.5	楕円形				
D-8	X12	Y 3 • 4	[280]	156	28.0	長方形				
D - 9	X 2	Y 0 • 1	120	110	69.5	円形				

Tab. 4 ピット計測表

1 ab. 4	C 7 11	11 例 30											
遺構名	位	置	規	模(cr	n)	形状	<b>油</b> 排力	位	置	規	模(cn	n)	形状
退佣石	11/.	<u>E</u>	長 軸	短軸	深さ	10 10	遺構名	717.	<u>E</u> .	長 軸	短軸	深さ	112 11
P - 1	X 1	Y 0	52.0	40.0	17.0	楕円形	P-42	X 7	Y 5	42.0	40.0	24.0	円形
P - 2	X 1	Y 0	62.0	59.0	23.0	円形	P-43	X 8	Y 4	44.0	40.0	24.5	円形
P - 3	X 3	Y 1 • 2	70.0	54.0	32.0	楕円形	P-44	X 8	Y 4	40.0	34.0	20.0	円形
P - 4	X 3	Y 1	42.0	38.0	40.5	円形	P-45	X 5	Y 3	34.0	30.0	18.5	円形
P - 5	X 0	Y 0	48.0	44.0	49.5	円形	P-46	X 4	Y 4	38.0	34.0	16.5	円形
P - 6	X 0	Y 1	50.0	50.0	13.5	円形	P-47	X 9	Y 1	50.0	48.0	51.0	円形
P - 7	X 0	Y 2	[64.0]	44.0	37.0	[楕円形]	P-48	X12	Y 3	88.0	78.0	27.5	楕円形
P - 8	X 0	Y 2	[56.0]	46.0	38.5	[楕円形]	P-49	X12	Y 3	46.0	40.0	24.0	楕円形
P - 9	X 0	Y 2	50.0	46.0	23.0	円形	P-50	X10	Y 3	52.0	50.0	18.5	円形
P-10	X 1	Y 0	46.0	40.0	14.0	円形	P -51	X10	Y 3	52.0	48.0	25.0	円形
P-11	X 1	Y 1	34.0	30.0	13.5	円形	P -52	X 7	Y 3	66.0	56.0	29.0	楕円形
P-12	X 1	Y 1	40.0	38.0	29.5	円形	P -53	X 7	Y 3	36.0	32.0	16.5	円形
P-13	X 1	Y 2	40.0	38.0	29.5	円形	P -54	X 8	Y 4	80.0	64.0	21.0	楕円形
P-14	X 1	Y 2	38.0	32.0	33.0	楕円形	P -55	X 3	Y 3	52.0	36.0	35.5	楕円形
P-15	X 1	Y 2	54.0	34.0	36.0	楕円形	P-56	X 3	Y 3	30.0	26.0	26.0	円形
P-16	X 1 · 2	Y 2	38.0	34.0	22.0	円形	P -57	X 3	Y 3	54.0	48.0	34.5	楕円形
P-17	X 2	Y 2	60.0	24.0	44.0	不定形	P-58	X 3	Y 3	54.0	44.0	27.0	楕円形
P-18	X 2	Y 2 • 3	70.0	60.0	35.5	楕円形	P-59	X 4	Y 4	34.0	32.0	29.5	円形
P-19	X 2	Y 1	34.0	32.0	31.0	円形	P-60	X 3	Y 3	28.0	28.0	15.0	円形
P-20	X 2	Y 0	48.0	34.0	20.5	楕円形	P-61	X 5	Y 4	30.0	32.0	14.5	円形
P-21	X 2	Y 0	54.0	48.0	29.5	楕円形	P-62	X 5	Y 4	36.0	34.0	18.5	円形
P-22	X 2	Y 0	36.0	30.0	30.0	楕円形	P-63	X 5	Y 4	48.0	44.0	16.5	円形
P-23	X 2	Y 1	48.0	36.0	45.0	楕円形	P-64	X 2	Y 1	82.0	52.0	38.5	楕円形
P-24	X 4	Y 3	72.0	40.0	32.5	[楕円形]	P-65	X 6	Y 5	70.0	52.0	29.0	楕円形
P-25	X 3	Y 0	24.0	24.0	20.0	円形	P-66	X 6	Y 3	48.0	34.0	38.0	楕円形
P-26	X 3	Y 0	30.0	24.0	30.5	楕円形	P-67	X 6	Y 3	58.0	34.0	28.5	楕円形
P-27	X 3	Y 0 • 1	28.0	28.0	15.5	円形	P-68	X 6	Y 3	76.0	54.0	20.0	楕円形
P-28	X 4	Y 0	40.0	38.0	18.5	円形	P-69	X 5	Y 3	46.0	38.0	19.5	楕円形
P-29	X 4	Y 0	64.0	46.0	41.5	楕円形	P-70	X 5	Y 3	32.0	30.0	31.5	円形
P-30	X 4	Y 0 • 1	90.0	60.0	21.5	楕円形	P-71	X 5	Y 3	32.0	30.0	29.0	円形
P-31	X 4	Y 0	50.0	50.0	22.5	円形	P-72	X 4 • 5	Y 3	36.0	36.0	28.0	円形
P-32	X 4	Y 1	42.0	32.0	20.5	楕円形	P-73	X 5	Y 3	34.0	30.0	30.5	円形
P-33	X 3	Y 3 • 4	38.0	38.0	41.5	円形	P-74		Y 3	36.0	36.0	31.0	円形
P-34	X 3 • 4	Y 4	60.0	52.0	28.0	楕円形	P-75	X 5	Y 4	62.0	42.0	18.0	楕円形
P-35	X 3	Y 4	38.0	34.0	37.0	円形	P-76	X 2 · 3	Y 4	104.0	72.0	69.5	楕円形
P-36	X 4	Y 4	38.0	32.0	18.5	楕円形	P-77		Y 4	50.0	42.0	28.5	楕円形
P-37	X 4	Y 3	36.0	34.0	44.0	円形	P-78	X 3	Y 4	34.0	34.0	18.0	円形
P-38	X 6	Y 4	68.0	46.0	24.0	楕円形	P-79	X 3	Y 4	76.0	52.0	27.5	楕円形
P-39	X 7	Y 3	39.0	32.0	40.5	楕円形	P-80	X 3	Y 4	66.0	54.0	31.5	楕円形
P-40	X 6	Y 3	38.0	30.0	17.5	楕円形	P-81	X 3	Y 1	54.0	52.0	39.0	円形
P-41	X 7	Y 3	48.0	44.0	44.0	楕円形							

Tab 5 縄文土器観察表

Та	ıb. 5	縄文	土器	<b>親察表</b>	ŧ				
番号	遺構番号/層位	器	種	①口径 ③底径	②器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	J – 1 床直	深	鉢	① - ③胴径(	②[35.5] 44.0)	①細粒②普通 ③にぶい赤褐④頸部~胴部	鎖状隆帯を中心にC字重ね沈線と3本1単位の縦位沈線を施文。縄 文LRを充塡。	6ほか	堀之内 I
2	J – 1 床直	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③黒褐④口縁部破片	無文。	1	
3	J - 2 床直	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④胴部破片	縄文LR施文後、縦位沈線を施文。	18	堀之内 I
4	JD-2 床直	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい橙④胴部破片	幾何学文施文。縄文LR施文。	1	
5	JD-4 床直	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい黄橙④頚部~胴部	沈線による区画内に縄文LR施文	X 3 Y 4	
6	JD- 5	深	鉢	①[15.3	<b>2</b> (5.0)	①細粒②良好	口縁部に凹線文と刻みを施し、胴部に縦位沈線施文。	8	称名寺II
7	床直 JD-5	深	鉢	(1) - (3) -	② -	部 ①細粒②良好	沈線による区画文。	5	称名寺II
8	<u>床直</u> JD-5	深	鉢	<u>(1)</u> -	2 -	③浅黄橙④胴部破片 ①細粒②良好	縦位沈線により区画され、その区画内に刺突を施す。	7	称名寺 I
9	床直 JD-6	清		<u>3</u> - <u>1</u> 8.4	22.8	③にぶい褐④胴部破片 ①細粒②良好	天井部に1対の紐通し用突起孔。	28	100001
	床直 JD-6			<u>3</u> - <u>1</u> 20.8	231.9	③褐灰④完形 ①細粒②普通	波状口縁。波頂部の把手・突起は、大・小・中・小の4単位で構成		71. 42 - 42 - 7
10	床直	深	鉢	35.4		③にぶい黄橙④5/6	される。口縁部無文帯は微隆起帯により区画される。胴部は微隆起帯による区画内に縄文LR施文。	60はか	称名守
11	JD-6 床直	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②普通 ③灰黄褐④口縁部~胴部	小波状口縁。口縁部は微隆起帯により無文帯を区画。胴部は微隆起帯による区画内に縄文LR施文。	13ほか	加曽利E4
12	JD-6 床直	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②普通 ③明赤褐④胴部	沈線による区画内に縄文LR施文。	20ほか	加曽利E4
13	JD-6 床直	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③浅黄橙④口縁部~胴部	波状口縁。波頂部に突起。口縁部は微隆起帯により区画された無文 帯が巡る、胴部は微隆起帯により区画されその区画内に縄文RL施 文。	3ほか	加曽利E4
14	JD-6 床直	深	鉢	1 - 3 -	2 -	①細粒②良好 ③浅黄橙④胴部破片	胴部に橋状把手。微隆起帯により区画され、区画内に縄文LR施文。	1	加曽利E4
15	JD-6 床直	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③浅黄橙④口縁部~胴部	口縁部は無文帯と微隆起帯。胴部には縄文LR施文。橋状把手貼付。	2	加曽利E4
16	JD-6 床直	深	鉢	① - ③ -	② -	①細粒②良好 ③にぶい黄橙④口縁部~胴 部	波形口縁。幅広く深い沈線による楕円や方形の区画内に縄文RL施文。		中津 I
17	JD-6 床直	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③灰黄褐④胴部破片	微隆起帯下に縄文LR施文。		加曽利E4
18	JD-6 床直	深	鉢	1 - 3 -	2 -	①細粒②良好 ③黄橙④胴部破片	沈線による区画内に縄文LR施文。	X 7 Y 5 No. 1	堀之内 I
19	JD-6 床直	深	鉢	1) - 3) -	2 -	①細粒②良好 ③橙④胴部破片	沈線による区画内に縄文LR施文。		称名寺II
20	JD-6 床直	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③浅黄橙④胴部破片	縄文施文後、沈線施文。		堀之内 I
21	JD-6 床直	深	鉢	1) - 3) -	2 -	①細粒②良好 ③黒褐④口縁部破片	孔の開いたC字重ねによる隆帯貼付。縄文LR施文。	26ほか	称名寺II
22	JD-6 床直	深	鉢	1 - 3 -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい黄橙④口縁部破片	孔の開いたC字重ねによる8の字状隆帯貼付。縄文LR施文。	22	称名寺II
23	X 8 Y 3	深	鉢	① - ③8.2	②(2.1)	①細粒②良好 ③にぶい赤褐④胴部~底部	網代圧痕。	4	堀之内II
24	X 9 Y 4	浅	鉢	1 - 3 -	②(8.4)	①細粒②良好 ③にぶい赤褐④1/2	頸部に横位沈線、胴部に沈線区画による文様を施し、区画内にLR縄 文施文。	1ほか	堀之内 I
25	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片	波状条線施文。		諸磯 b
26	X 7 Y 4	深	鉢	1 - 3 -	2 -	①細粒②良好 ③橙④胴部破片	半截竹管による集合条線。その下に羽状縄文LR・RL施文。	54	鍋屋町?
27	覆土	深	鉢	1 - 3 -	2 -	①細粒②良好 ③橙④胴部破片	26と同一個体。		鍋屋町?
28	覆土	深	鉢	1 - 3 -	2 -	①細粒②良好 ③明赤褐④胴部破片	半截竹管による横位の沈線施文。縄文RL施文。		諸磯 b
29	覆土	深	鉢	1 - 3 -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片	口縁部は半截竹管による刺突文を施し、その下に横位の沈線文、刺 突文を施文。		五領ガ台
30	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③灰褐④胴部破片	口縁部に無文帯をもち、その下に幾何学文施文。		堀之内 I
31	X 7 Y 3	深	鉢	1 - 3 -	2 -	①細粒②良好 ③明赤灰④口縁部破片	横位、斜位、円弧状の沈線による区画内に縄文LR施文。	4	堀之内 I
32	X 6 Y 1	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③明黄褐④胴体部破片	幾何学文内に縄文LR施文。		堀之内 I
33	X 6 Y 4	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③褐灰④口縁部破片		16ほか	堀之内 I
34	覆土	深	鉢	1 - 3 -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片	口縁部に無文帯をもちその下の沈線区画内に縄文LR施文。幾何学文施文。		堀之内 I
35	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③黒褐④胴部破片	肋骨状の沈線施文。		堀之内 I
36	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい黄褐④胴部破片	沈線による幾何学文内に縄文LR施文。		堀之内 I
37	X 6 Y 2	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい黄褐④口縁部破片	C字状の沈線、沈線端部に刺突文を施す。中央部には指頭状の円形 押捺文。		堀之内 I
38	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③黒褐④把手	円形把手の内側にC字の沈線を施す。中央部に孔有り。		堀之内 I
39	X 9 Y 2	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒・雲母②良好 ③黒褐④胴部破片	上部磨消縄文。下部は隆帯・沈線により区画され、隆帯には刻み、 沈線内には縄文LRが施文。	ļ	堀之内 I
40	X 8 Y 3	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③黒褐④突起部破片	口縁部無文帯に8字状隆帯を貼付。その下の横位隆帯に刻みを施す。	16	堀之内 I
41	X10Y 3	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③褐灰④口縁部破片	口縁部に無文帯をもち、その下には隆帯が貼付され刻みが施されている。胴部は平行沈線による区画内にLR縄文施文。		堀之内 I
42	X 4 Y 2		鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③黒褐④口縁部破片	口縁部に2本の隆帯が貼付され、その上に刻みを施す。		堀之内 I
43	覆土	浅	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③褐灰④口縁部破片	小波状口縁。口縁部は内折する。波頂部の刺突は内面まで貫通する。 口縁端部に沈線が施される。縦位の鎖状隆帯。		堀之内 I
	X 9 Y 4	深	鉢	① - ③ -	② -	①細粒②良好 ③明黄褐④突起部破片	沈線、円形刺突を施す。	19	堀之内 I
45	覆土	注口		① - ③ - ① -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい黄褐④注口部 ①細粒②良好	丁寧に研磨。		後期
46	X 6 Y 4	深	鉢	3 -	<i>₩</i>	③明黄褐④口縁部破片	沈線区画内に円形刺突文が施され、その左右に2本の平行沈線施文。	23	堀之内 I

番号	遺構番号/層位	器	種	①口径 ③底径	②器高	①胎土 ②焼店 ③色調 ④遺宿		器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備	考
47	X 5 Y 0	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片		沈線による区画内に刻みを施す。	1	堀之内 I	
48	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片		口縁部に円形状の刺突が施され、その下に縦位の沈線施文。		堀之内 I	
49	X12Y 5	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部~胴部	3破片	口縁部に円形刺突を施し、その下に縦位の沈線施文。	1	堀之内 I	1
50	X 6 Y 5	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③灰黄褐④口縁部破		隆帯が貼付され円形状の刺突を施す。	20	堀之内 I	[
51	覆土	深		① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③明赤褐④口縁部破		口縁部に指頭状の円形文が施され、その左右に沈線を施す。		堀之内 I	[
52	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③浅黄橙④胴部破片		条線施文。		堀之内 I	[
53	X 5 Y 0	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③浅黄橙④口縁部~	-胴部破	橋状把手貼付。	1	堀之内 I	]
54	X 8 Y 3	深		① - ③ -	2 -	カ ①細粒②良好 ③橙④胴部破片		沈線による区画内に縄文LR施文。	55	堀之内 I	
55	覆土	深		① - ③ -	② -	①細粒②良好 ③浅黄橙④口縁部破	片	口縁部に楕円形の区画文、胴部も沈線で区画され区画内に縄文LR施 文。		堀之内 I	]
56	X 7 Y 4	深	_	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③灰褐④口縁部破片		波頂部破片。縦位の沈線を施し、上下左右に竹管による円形刺突を 施す。		堀之内 I	]
57	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい黄橙④口縁		沈線による区画内に刻みを施す。		堀之内 I	1
58	X 6 Y 2	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③黒④口縁部破片	.,	口縁部に楕円形の沈線区画が施され、その脇に円形刺突を施す。	16	堀之内 I	
59	覆土	深		① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③黄灰④胴部破片		縄文LR施文後、沈線を施文。		堀之内 I	1
60	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片		口縁部に凹線、その下には縦位の条線施文。		堀之内 I	[
61	X 9 Y 2	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい橙④胴部破	計	縄文LR施文後、沈線を施文。		堀之内 I	[
62	X 7 Y 3	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③黒褐④口縁部破片		小波状口縁。波頂部は沈線と刺突を施す。		堀之内 I	[
63	X 8 Y 4	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい赤褐④胴部	3破片	沈線による区画内に縄文LR施文。	4	堀之内 I	[
64	X 9 Y 1	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい黄橙④口縁	常破片	沈線による区画内に刻みを施す。楕円形状の隆帯貼付。	6	堀之内 I	[
65	X 8 Y 3	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③明赤褐④胴部破片		沈線による区画内に縄文LR施文。		堀之内 I	[
66	X 8 Y 3	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒・雲母②良好 ③にぶい黄橙④胴部	2	沈線による区画内に縄文LR施文。		堀之内 I	[
67	X 9 Y 4	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい黄橙④胴部		縄文LR施文後、蛇行沈線文や斜位の沈線文施文。	4	堀之内 I	[
68	X 4 Y 0	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒·雲母②良好 ③黒褐④胴部破片		沈線による区画内に縄文LR施文。	2	堀之内 I	1
69	X12Y 3	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい橙④口縁部	3破片	口縁部は沈線で区画を施しその区画内に刻みを施す。口縁部下は沈 線による区画内にLR縄文施文。	3	堀之内 I	1
70	X 8 Y 3	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④胴部破片		4本の沈線で区画、区画内に縄文LRを充塡。		堀之内 I	[
71	X 8 Y 3	注「	コか	① - ③ -	2 -	①細粒·雲母②良好 ③灰黄褐④口縁部破	货片	頸部くの字状を呈する。横位の沈線施文。		堀之内 I	1
72	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片		縄文LR施文後、縦位の沈線施文。		堀之内 I	1
73	X 6 Y 1	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい橙④口縁部	3破片	波状口縁。先端に宝珠状の飾り、飾りの下部にこぶ状突起貼付。口 縁部に沈線と刻みを施す。		高井東	
74	X 2 Y 4	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片		口縁部に2本の平行沈線を施文。その下に斜位の沈線施文。	1	加曽利E	3
75	覆土	浅		① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③黒④口縁部破片		口唇部に突起。沈線による区画内に縄文LR施文。器面は内外とも良好に研磨されている。		加曽利E	3
76	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③褐灰④口縁部破片		小波状口縁。口縁部に3本の沈線と2個のこぶ状突起を貼付する。		加曽利I	3
77	X 6 Y 4	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③赤褐④口縁部破片		沈線区画内に刻みを施す。	24	後期	
78	覆土	9	泍	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片		口縁部に沈線が施され、縄文施文。		加曽利E	3
79	覆土	深		① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい黄橙④口縁	常破片	横位沈線による区画内に刻みを施す。裏面にも横位沈線施文。		加曽利E	3
80	X 8 Y 3	深		① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片	2/1	口縁部に凹線を施し、胴部に縦位の沈線施文。	3	後期	
81	覆土	浅		① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片		斜めの刻みを施し、その下に横位の沈線施文。		加曽利E	3
82	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい黄橙④口縁	常破片	2本の鎖状隆帯。		堀之内 I	[
83	X 6 Y 3	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③明黄褐④口縁部破		口縁部に横位の沈線が施され、その下に縦位の条線施文。		加曽利E	3
84	覆土	深		① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④口縁部破片		横位の沈線に区切文施文。補修孔有り。		加曽利E	3
85	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④底部破片		網代圧痕。			
86	X 2 Y 1	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③にぶい赤褐④底部	3	網代圧痕。	1		
87	X 3 Y 4	深		① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④底部		網代圧痕。			
88	覆土	深	鉢	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④底部		網代圧痕。			
89	X 4 Y 0	深		① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③明黄褐④口縁部~ 片	-胴部破	波状口縁。波頂部にC字重ねの隆帯を貼付。口縁に平行微隆起帯を 施す。胴部は沈線による区画内に縄文LR施文。	1	称名寺 I	]
90	X 8 Y 3	土製	円板	① - ③ -	2 -	①細粒②良好 ③橙④一部					
注)	①層位は	. [H			り 10cm以内		「覆土」:	床面より10cmを越える層位からの検出とした。			

注)①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「覆土」:床面より10cmを越える層位からの検出とした。
②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重きの単位はgである。現存値を ( ) で示した。
③胎土は、細粒 (0.9mm以下)、中粒 (1.0~1.9mm)、祖粒 (2.0mm以上) とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳 (小山・竹原1976) によった。

Tab.6 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

田一1   須恵器   1012   224.5   ①中粒②良好   一枚部:   1014   225.5   ①中粒②良好   一板部:   1015   225.5   125.5   125.5   23.5   24.5   125.5   24.5   125.5   24.5   25.5   24.5   25.		登録番号	備	考
Right   Ri			,	~5
2 H-1         類 惠 器 ① [14.0]②(5.8)         ①細粒②良好         轆轤整形。体部:内湾気味。口縁部:外反気味、轆轤無の転覚切り付高台。           3 H-1	、味、轆轤無	16	酸化焰	焼成
日本語   11.2   12.2   12.3   13.2   13.2   13.3   14.3   14.3   15.3   15.4   15.3   15.4   15.3   15.4	で。底部:	24	酸化焰	焼成
Rel   日   日   日   日   日   日   日   日   日	底部:回転	20		
「床直 高 台 塊 3] [7.0]   3 [天黄 4] 3/5   条切り後篦調整付高台。漬けがけ。	底部: 同転			
3         竈内         甕         36.6         3明赤褐②1/4         み痕。口縁部:コの字くずれ、輪積み痕、横撫で。内面           6         H-1         北 師 器         ①[15.3]②(5.0)         ①細粒②良好         衛格部:上半部は横位の篦削り。口縁部:コの字くずれ、輪積み痕、横撫で。内面 標準。           7         H-1         須 恵 器 ② - ② - ② - ② ー ② ー ② ー ③を益。② - ② ー ② ー ② ー ② ー ② ・ ② ・ ② ・ ② ・ ② ・ ② ・		4		
6     H-1 大師器 (京直)     土師器 (①[15.3]②(5.0)     ①細粒②良好 (新部上部3/5)     体部:上半部は横位の篦削り。口縁部:コの字くずれ、面無で。       7     H-1 須恵器 (① - ②)     ② - ② - ② - ② - ② - ② - ② - ② - ② - ② -	央部に輪槓 i箆削り。	26ほか		
7     H-1     須恵器 〇 - ② - ①細粒②良好     体部:内外面轆轤無で。口縁部:わずかに内傾、横撫で角状、水平に張り出し。       8     H-3     須恵器 〇12.2 ②3.7     ①細粒②良好 (資料、水平に張り出し。       8     所直 (京正)     第 日 - 3 (東京器 〇12.2 ②3.7)     ①細粒②良好 (東京経・大部: 内面・経・ア・原)の線刻文字。       9     H-4     年 師器 〇11.6 ②2.9     ①細粒②良好 (本部: 内湾、寛削り後無で。口縁部: 直立、無で。底部: 宮削り後無で。口縁部: 直立、無で。底部: 宮門 (安撫で、口縁部: 直立、無で。底部: 宮門 (安撫で、口縁部: 直立、無で。底部: 京市 (京下の西)	横撫で。内	15		
8     H-3 床直     類 惠器 「好」     ①12.2 ③3.7     ②3.7     ①細粒②良好 ③褐灰④3/4 昼部: 箆調整、「七」の線刻文字。       9     H-4 床直     土 師器 「好」     ③11.6 ③2.9 ③16/35/6     ②2.9 ③16/35/6     ①細粒②良好 ⑤割り後撫で。「口縁部:直立、撫で。底部 ⑤割り後撫で。「口縁部:直立、撫で。底部 ⑥割り後無で。「口縁部:直立、撫で。底部       10     H-4     土 師器     ①11.9     ②3.1     ②細粒②良好     体部:内湾、箆削り後撫で。「口縁部:直立、撫で。底部	。鍔部:三	30		
9     H-4     土 師 器 ①11.6 ②2.9 ①細粒②良好	轆轤撫で。	12		
	: 浅い丸底.			
		39		
		55ほか		
H - 4   土 師 器   ①12.2 ②3.1   ①細粒②良好   体部:内湾気味、撫で。口縁部:外傾気味、横撫で。底   環土   坏   ③ -   ③橙④5/6     体部:内湾気味、撫で。口縁部:外傾気味、横撫で。底	部:半底気	101ほか		
12   H-4   土 師 器   ①12.6 ②3.5   ①細粒②良好   体部:内湾、篦削り後撫で。口縁部:直立、横撫で。底 原	部:浅い丸	160		
12 H-4 土 師 器 D13.3 203.7 D細粒②良好   体部:内湾、箆削り後撫で。口縁部:直立、横撫で。底	部:浅い丸	88		
H-4 土 師 器 ①14.6 ②3.7 ①細粒②良好   体部:外頃、箆削り後撫で。口縁部:外反気味、横撫で		83		
複土   「中 3 - 3 にない亦何41/2   模。底部・浅い丸底、昆削り復無で。内囲無で、指圧浪   H - 4   土 師 器 ①14.8 ②3.9 ①細粒②良好   体部:外傾、箆削り後無で。口縁部:外反、横無で。底	部:浅い丸			
Krig   外 (3) -   (3) 使(4/4/5		123		
10   覆土   坏   ③[9.2]   ③灰白④1/3   り後調整。内面轆轤調整。外面に自然釉。		126		
H - 4   蓋   ①[15.8]②2.9   ①細粒②良好   轆轤整形。天井部:膨らみを持ちながら傾斜、轆轤痕。   ③ 京 惠 器   ③つまみ5.0   ③灰白④1/6   ・ 収かえり。扁平でリング状のつまみ。内外面に自然軸。		29		
H - 4   蓋   ① - ②(2.1)   ①細粒②良好   轆轤整形。天井部:膨らみを持ちながら傾斜、轆轤痕。   覆土   須 恵 器   ③つまみ4.4   ③褐灰④天井部一部   横轤整形。天井部:膨らみを持ちながら傾斜、轆轤痕。   損。扁平でリング状のつまみ。	口縁部:欠	57		
H - 4   土 師 器   ①[20.0]②(9.3)   ①細粒②良好   休部: 上半部は縦・斜位の箆削り後箆押し。口縁部: 外原内面撫で。	豆、横撫で。	56		
20 H-4 土 師 器 ①[22.8]②(5.9) ①細粒②良好	内面撫で。	148		
複工   短   ③   ③   ○   ○   ○   ○   ○   ○   ○   ○		26		
	、横撫で。			
22   竈内   坏   ③ -   ③橙①1/2   底部:ほぼ平底、箆削り後撫で、指圧痕。内面撫で。		18ほか		
23 床直 坏 ③8.2 ③黄灰④底部一部		8ほか		
24     H-5 床直     土 師器     ①[20.2]②(12.0)     ①細粒②良好       ③橙④口縁~体部一部     体部:上半部は斜位の箆削り。口縁部:くの字、横撫で。		5		
H - 7   土 師 器   ①[17.2]②3.1   ①細粒②良好   体部:外傾、篦削り後撫で。口縁部:外反、横撫で。底   味、篦削り後撫で。内面撫で。	部:平底気	9		
H - 7   須恵器  ①13.2 ②3.7   ①中粒②良好   轆轤整形。体部:外傾、顕著な轆轤痕。口縁部:外傾、 原部:回転糸切り。内面轆轤調整。	轆轤撫で。	41		
27   H - 7   土 師 器   ①[19.8]②(8.9)   ①細粒②良好   ②電子   後継の日本の主要   本部:上半部は横位の箆削り。口縁部:コの字、横撫で   3を強いる   本部:上半部は横位の箆削り。口縁部:コの字、横撫で   3を持って   本部:上半部は横位の箆削り。口縁部:コの字、横撫で   3を持って   本部:上半部は横位の箆削り。口縁部:コの字、横撫で   3を持って   4を持って   4を持	。内面撫で。	69		
R   1   1   1   1   1   1   1   1   1	。底部:丸	27		
		3		
復工   瓶  ②[12.6]   ③次日(4医印1/5)	つまみ欠損。			
30   覆土   蓋   ③つまみ -   ③灰白④1/6   口縁部:短いかえり。		3		
31 竈内 甕 ③- 3種④ 口縁~体部2/5 12・12・13・13・13・13・13・13・13・13・13・13・13・13・13・	対・油、力	17ほか		
32   床直   「坏   ③ -   ③橙④1/2   底、箆削り後撫で。内面撫で。		19ほか		
H - 9   土 師 器   ①[11.8]②4.3   ①細粒②良好   体部:外傾、箆削り後撫で。口縁部:外傾、強い横撫でい丸底、交換点に強い稜、箆削り後撫で。内面撫で。	。底部:浅	81		
H - 9   土 師 器   ①(12.2)②(3.4)   ①細粒②良好   体部:内湾、篦削り後撫で。口縁部:直立、横撫で。底   気管削り後撫で。内面撫で。	部:浅い丸	58		
H − 9	部:浅い丸	111		
H-9   土 師 器   ①[12.1] ②(3.4)   ①細粒②良好   体部:内湾、箆削り後撫で。口縁部:直立、横撫で。底	部:浅い丸	53ほか		
	外傾、強い	80		
31   竈内   坏   ③ -   ③にぶい橙①完形   横撫で。底部:平底気味、交換点に稜、箆削り後撫で。   1   1   1   1   1   1   1   1   1	内面撫で。			
		129ほか		
39   覆土   坏   ③ -   ③ 機④3/5     底、箆削り後撫で。内面撫で。		9		
40     H - 9 覆土     須 恵 器		2		
41   H - 9   須恵器 ①11.3 ②3.4   ①細粒②良好 覆土 「坏」。       ①細粒②良好 (3) F(4)完形   轆轤整形。体部:外傾。口縁部:外反気味、轆轤撫で。 管切り後調整。内面轆轤調整。内外面に自然釉。	底部:回転	1		
42   H - 9   須 恵 器 ①[18.0]②2.9   ①細粒②良好   轆轤整形。天井部:膨らみを持ちながら傾斜、リング状   2   2   2   3   3   3   3   3   3   5   4   4   4   4   4   4   4   4   4	つまみ、轆	116		
42     H-9     土師器     ①14.2     ②11.6     ①細粒②良好     体部:上半部は斜位の箆削り後撫で、下半部は縦横位の	箆削り。口	76		·部煤付
	内面墲グ	77	着 外面一	·部煤付
# H - 9 土 師 器 (①17.8 (②21.1 (①細粒②良好			着	
	<b>定郊・∕又2₀</b> ∞	78		·部煤付
	ATH • ETOUII	86ほか	着	LI WALL
H - 9   土 師 器   ①[23.0]②(8.1)   ①細粒②良好	,内面撫で。	52		

番号	遺構番号/層位	器種	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考	
48	H-9 竈内	土 師 器	① - ②(15.3) ③[3.8]	③明赤褐④体部一部~底部	体部:中央部は斜位、下半部は横位の箆削り。下半部に輪積痕。底 部:線刻。内面箆撫で。	157		
49	H - 9 竈内	土 師 器	①22.5 ②(17.3) ③ -	①細粒②良好	体部:縦位の箆削り、上部に指圧痕。口縁部:外反、横撫で。内面 撫で。	158ほか		
50	H-11 床直			①細粒②良好 ③黒褐④1/2	轆轤整形。体部:内湾、外面に墨書。口縁部:外反、轆轤撫で。底 部:回転糸切り。内面轆轤調整。	11	酸化焰焼成内外面黑色理。	処
51	H−11 竈内	土師器	①[15.0]②4.3 ③ -		体部:内湾気味、箆削り後撫で。口縁部:外傾、横撫で。底部欠損。 内面磨き。	1		
52	H-11 床直	坏	①[11.8]②(2.9) ③ -	①細粒②良好 ③灰④口縁部~体部一部	轆轤整形。体部:内湾、顕著な轆轤痕。口縁部:外反、轆轤撫で。 内面轆轤調整。底部欠損。内外面に自然釉。	6		
53	H-11 床直	須恵器	①[43.4]②(3.9) ③ -	③寅灰④口稼一部	轆轤整形。口縁部:外反気味、轆轤撫で。底部欠損。	3ほか		
54	H-11 床直	土 師 器	① - ②(9.2) ③4.0	①細粒②良好 ③明赤褐④体部~底部	体部:縦位の箆削り。内面撫で。	5		

Tab. 7 石器観察表

番号	遺構・層位	器	種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石 材	遺存度	登録番号	備	考
1	J − 1 • 床直	石	鏃	3.7	1.5	0.5	2.1	黒色頁岩	完形	2	有茎	
2	JD-6・覆土	打製石	<b>石斧</b>	6.7	5.8	2.5	94.0	頁 岩	1/2	37	分銅形	
3	JD-6・床直	Ш	石	10.7	9.0	3.7	397.0	安山岩	ほぼ完形	44	両面に凹面	一部摩耗
4	X 8 Y 4	擦	石	16.4	5.9	4.3	696.0	安山岩		2		
5	覆土	石	鏃	(1.6)	(1.5)	0.4	0.6	黒曜石	先端部欠損	H-4No.118	無茎	
6	覆土	石	錐	(2.8)	(0.7)	0.4	1.2	黒色頁岩	先端部残存	覆土		
7	覆土	打製石	<b>石斧</b>	(11.1)	7.0	2.8	118.0	黒色頁岩	3/4	P-28	分銅形	
8	覆土	打製石	<b>石斧</b>	(5.6)	(4.7)	(1.3)	46.6	黒色頁岩	末端部残存	覆土	短冊形	
9	覆土	多孔	石	12.3	10.6	6.3	950.0	安山岩	完形		蜂の巣子	-
10	X 6 Y 4	石	棒	(35.2)	(19.5)	(17.2)	13600.0	緑泥片岩	一部残存	31		

注) ①層位は、「床直」: 床面より10cm以内の層位からの検出、「覆土」: 床面より10cmを越える層位からの検出とした。 ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を( )で示した。

Tab. 8 石製品観察表

番号	遺構・層位	器 種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石 材	遺存度	登録番号	備 考
1	H − 1 • 床直	砥 石	(7.0)	(5.4)	(3.5)	115.0	凝灰岩	一部残存	5	全面使用
2	H − 1 • 床直	砥 石	9.4	4.0	3.1	153.0	凝灰岩	完形	8	4面使用
3	H − 7 • 床直	紡錘車	上径(3. (5.2)孔	3)下径 径(0.7)	(1.6)	24.0	凝灰岩	1/2強残存	68	

注) ①層位は、「床直」: 床面より10cm以内の層位からの検出、「覆土」: 床面より10cmを越える層位からの検出とした。 ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab.9 鉄製品観察表

番号	遺構・層位	器 種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺存度	登録番号	備	考
1	H − 1 • 床直	角 釘	(2.8)	(0.5)	(0.6)	3.4	一部残存	14	L字状に屈曲	
2	H − 1 • 床直	刀 子	(9.3)	(1.5)	(0.2)	18.4	ほぼ完形	19		
3	H−11・覆土	角 釘	(4.3)	(1.4)	(0.6)	6.5	一部残存	7	L字状に屈曲	
4	H−11・覆土	鎌	(14.8)	(2.5)	(0.3)	44.2	ほぼ完形	12		

注) ①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「覆土」:床面より10cmを越える層位からの検出とした。 ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を( )で示した。

# VIまとめ

今回の調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡2軒・土坑6基、古墳~平安時代の竪穴住居跡11軒・土坑9基・掘立柱建物跡1棟・ピット81個が検出された。縄文時代と古墳~平安時代の2つに分けてまとめとしたい。

## 1 縄文時代

#### (1) 竪穴住居跡

2軒の竪穴住居跡は、出土遺物から縄文時代後期前半の堀之内 I 式期の所産である。遺構の確認は、困難を来したため、確認面から床面まで10cm前後の浅い床面の検出となった。本遺跡については、従来から後期中葉の堀之内、加曽利B式期の遺跡として知られて来た。昭和40年代の群馬用水建設に伴う調査では、西側の低地から後期中葉の包含層が検出されたのみに留まっているため、今回の調査で集落の一端を解明できた事は大きな成果であった。今後、集落の広がりや時期的な変遷を解明していく必要が生じた。

# (2) 土 坑

6基調査した土坑のうち、顕著な遺物が見られたものとしては、JD-5、6号土坑が挙げられる。

JD-5号土坑はフラスコ状土坑である。フラスコ状土坑は、一般的に東北南部から東関東地方にかけての遺跡で縄文前期から中期の半ばに盛行をみせる。その用途は、口がすぼまるといった形態的な特徴などから貯蔵穴と想定されている。なお、本土坑は出土遺物から称名寺 I 式期の所産であることから、一般的事例からみると後出するものといえよう。

JD-6号土坑は加曽利E4式~称名寺I式期の所産とされるものである。従来から加曽利E4式と称名寺I式は共伴事例が良く知られるところである。2型式の混在は、time over the lapの原則で成立する縄文土器編年の再考を促すものととらえることが出来よう。また、16の土器は、文様構成や幅広で深く刻まれた沈線から西日本の土器型式である中津式土器の影響を受けたものと考えられる。市内では青梨子町熊野谷遺跡1住や市之関町前田遺跡36住で検出されている。また、芳賀北曲輪遺跡22住では東北地方の影響を受けた土器の出土もみられることから、中期から後期へと変革する時期の土器群のあり方を示している。

また、10の土器は、ほぼ復元出来た優品である。 4 単位の大波状口縁には大突起→小突起→中突起→小突起が付けられ、大と中、小と小が向かいあって構成される。口縁部無紋帯は微隆起区画を用い、胴部には沈線によって文様が描出される。市内小神明遺跡群で出土した土器や熊野谷遺跡と同類型として捉えられるものである。関東地方全域にわたって存在することから一度、加曽利E式や称名寺式とは分別して整理を行ってみる必要のある土器と考えられる。

このように、本土坑出土の土器群の様相から、後期初頭の土器が抱える問題を垣間見ることができた。

## (3) 遺物包含層

包含層から出土した土器は、前期後半の諸磯 b・c 式、中期初頭の五領ケ台式、中期末の加曽利E 4 式、後期の称名寺式、堀之内式、加曽利B式、高井東式土器などが認められた。この中でも、fig.18-26・27は文様構成から北陸地方の前期後半を代表する土器型式である鍋屋町式土器の影響を受けたものと考えられる。ただし、鍋屋町式土器の特徴とみられる結節状浮線はみられないものの文様構成や胴部の羽状縄文はその特徴を表している。

また、石製品として多野藤岡地域に分布する結晶片岩を加工した無頭石棒が出土した。風化が著しかったため、取り上げは困難であったが径17cmを超える大形品であった。直線距離で20kmを超える多野藤岡地域から搬入されたものであり、結晶片岩への深い執着を感じとることができる。

# 2 古墳・奈良・平安時代

#### (1) 集落の変遷

竪穴住居跡は、時期で分けると次のようになる。 6 世紀後半が 2 軒( $H-4\cdot 9$  号住居跡)、 8 世紀中葉が 4 軒 ( $H-3\cdot 5\cdot 8\cdot 10$  号住居跡)、 9 世紀代が 2 軒 ( $H-7\cdot 11$  号住居跡)、 10 世紀前半が 1 軒 (H-1 号住居跡)、 時期不明が 2 軒 ( $H-2\cdot 6$ ) である。主軸方向、規模について下表にまとめた。

	時	期	主軸方向	東西(m)	南北(m)	面積(m²)
	6世紀後半		N −84~93° − E	4.28~7.34	5.14~6.66	20.21~46.44
	8世紀中葉		N −86~89° − E	3.04~3.80	*	*
	9世紀代		N −94~103° − E	3.30~3.56	3.98~4.04	12.09~12.68
	10世紀前半		$N-85^{\circ}-E$	4.5	2.94	12.42

Tab.10 古墳・奈良・平安時代竪穴住居跡時代別比較表

6世紀から10世紀にかけて、およそ真東に近い向きに住居が造られている。中でも8世中葉の3住居では、ほとんど同じ向きで、本遺跡地の北端に、等間隔で同一線上に位置している。同一時期に生活していたことが窺える。

住居の規模を見ると、古墳時代には大型住居が造られ、時代が下るにつれて規模が小さくなってきている。また、形も正方形あるいは南北に長い住居跡から東西に長い住居跡へと変化していくことが、本遺跡地から垣間見ることができる。

6世紀後半には調査区の中央( $H-4\cdot9$ 号住居跡)に、8世紀中葉には調査区北側( $H-3\cdot5\cdot10$ 号住居跡)と南側(H-8号住居跡)に、9世紀~10世紀にかけては、再び調査区中央( $H-1\cdot7\cdot11$ 号住居跡)に集落が形成されていったことが窺える(Fig. 5遺跡全体図参照)。

## (2) 燒失住居

H-1号住居跡は貴重な焼失住居である。住居内北西側がやや少ないものの、全体的に非常に良好な状態で炭化材が70本(破片も含む)程検出された。自然の丸木を使用しており、多くは垂木とみられるが、Yの字状の又柱や棟木も見つかった。すべて炭化材は芯まで焼けており、故意に焼失させたと想定できる。しかもこれほどまでの良好な残存状態は、葺き材(藁など)を厚くした上で土葺きをしっかり行っていたことが考えられる。またほぼ住居内全体に残存していて若干北西側の残存状態が悪いことは、弱い北西の風の中、北西隅に点火したと想定される。炭化材の下から焼土と炭が検出され、炭化材の間から、L字状に屈曲した釘が出土した。竈構築は、石で囲み、その内側を粘土で被覆され、多くの焼土が検出された。竈内からは、酸化焰焼成の高台境、甕、羽釜などが出土した。

# (3) そのほかの住居跡

H-4 号住居跡は、大型で古墳時代後期(6世紀後半)の住居跡と想定される。竈は固い粘土で被覆され、残りのよい煙道を検出することができた。H-9 号住居跡は、床面近くから、坏、高台埦、蓋、甕等、完形あるいはそれに近い遺物が多数出土した。

## 3 最後に

本遺跡は、縄文時代前期〜後期、6世紀後半〜10世紀の時代において、連綿と人々が生活してきた土地である。以前の東矢次遺跡 I・II遺跡での調査をさらに発展させるものとなった。今後の調査に期待したい。

<sup>※…3</sup>軒とも現存値であったため、省略した。

# 参考文献

前原豊・都所敬尚編『熊野谷遺跡』前橋市教育委員会 1989

縄文セミナーの会編『第4回縄文セミナー 縄文後期の諸問題』 1990

細野高伯編『鼻毛石中山遺跡』宮城村教育委員会 1996

小林達雄編『縄文土器の編年と社会』 1999

鈴木徳雄『称名寺式終末期と装飾帯の変化―所謂「I文様帯」の形成と堀之内1式―~群馬考古学手帳10』 2000

小林達雄『縄文土器の研究〈普及版〉』 2002

石守晃『焼失実験と関東北部の焼失住居~考古学ジャーナル』 2003

佐々木義則『武田西塙遺跡 奈良・平安時代編』ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 2002

小川卓也編『鼻毛石赤坂遺跡』宮城村教育委員会 2004

小川卓也編『市之関前田遺跡II』前橋市教育委員会 2005

髙橋亨·高坂麻子編『元総社蒼海遺跡群(5)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006

宮本長二郎『日本の美術 第490号 出土建築部材が解く古代建築』 至文堂 2007

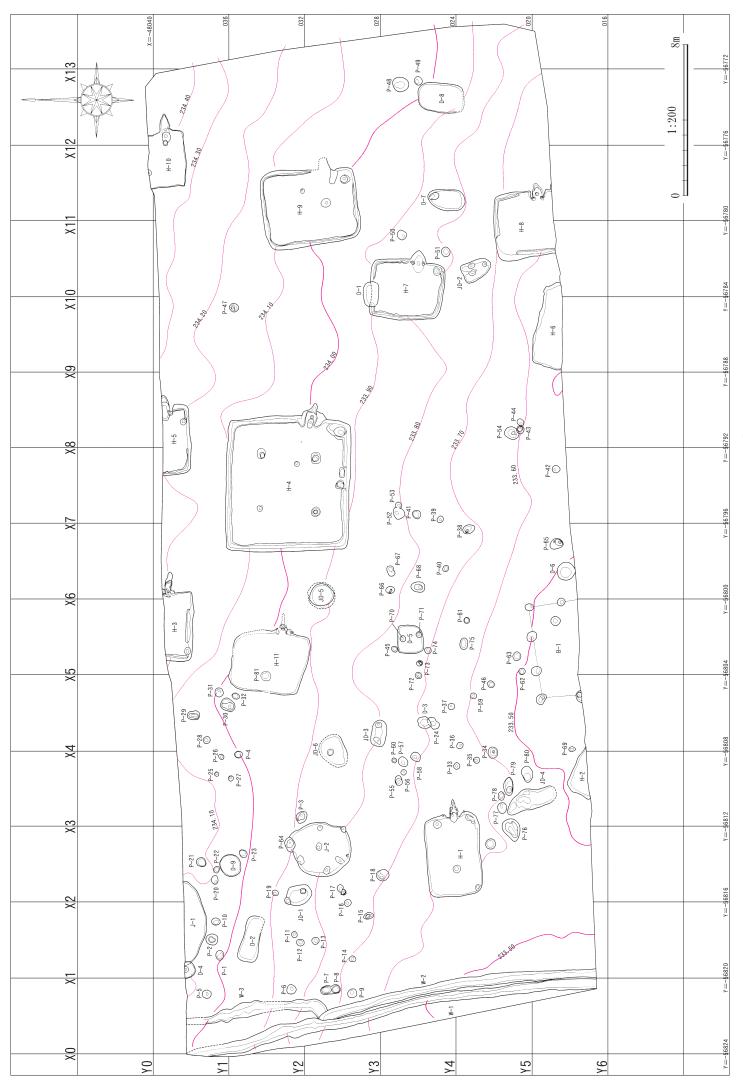
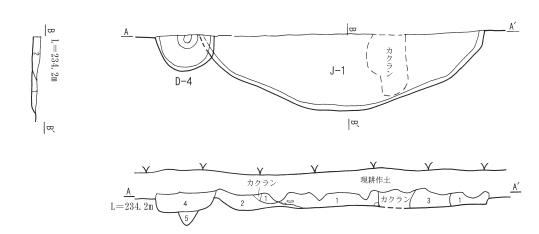
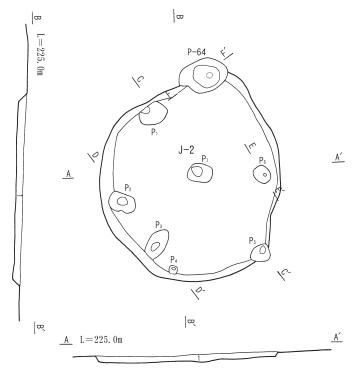
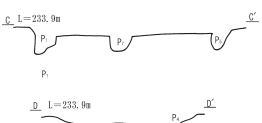


Fig. 5 遺跡全体図



- J-1号住居跡 D-4号土坑跡 ベルトセクション
- 1 黒 細 ◎○ ロームブロック3%、白色軽石1%
- 2 黒褐 細 ◎○ As-C・Hr-FA 3 %、ロームブロック20%
- 3 黒褐 細 ○○ Hr-FA1% ロームブロック・ローム粒5%
- 4 黒褐 細  $\bigcirc\bigcirc$  As-C・Hr-FA1%、ロームブロック・ローム粒2% (D-4)
- 5 暗褐 細 ○○ As-C・Hr-FA1%、ロームブロック・ローム粒3% (D-4)

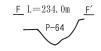






J-2号住居跡 柱穴計測表

	= 3 E/E/S E/S (E/S)				
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
$P_1$	楕円形	48	34	27.0	
$P_2$	楕円形	46	28	17.5	
$P_3$	楕円形	52	30	20.0	
P 4	円形	14	14	26.5	
P 5	楕円形	30	30	31.0	
P 6	円形	30	26	16.5	
P 7	楕円形	40	30	21.0	

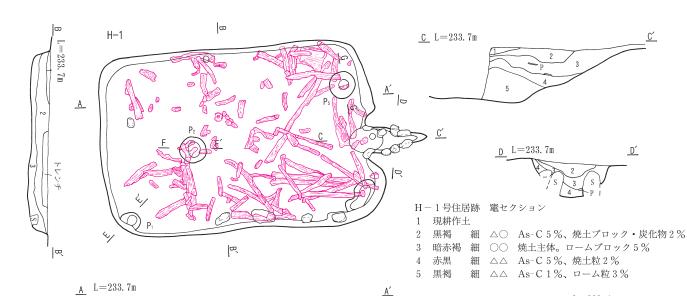


J-4ケ圧/山跡 ・ハルドモノション	J	- 2 号住居跡	ベルトセクション
--------------------	---	----------	----------

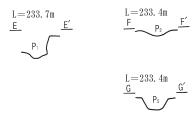
1 黒 細 ○○ ロームブロック20%、白色軽石1%



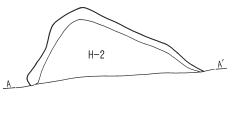
Fig. 6 J-1 · 2 号住居跡、D-4 号土坑



- H−1号住居跡 ベルトセクション
- 1 現耕作土
- 細 〇〇 As-C10% Hr-FA5% 燒土粒2% 炭化物5%
- 3 黒褐 細  $\bigcirc\bigcirc$  As-C 2 % 焼土ブロック・ロームブロック 5 %
- 黒褐 細 ○○ As-C10% Hr-FA2% ロームブロック10%



<u>D′</u>





- H-2号住居跡 ベルトセクション
- 1 現耕作土
- 2 黒 細 ○○ As-C 3% Hr-FA 5% 3 黒 細 ○○ As-C 3% ロームブロック 2%
- H−3号住居跡 ベルトセクション
- 1 現耕作土
- 2 黒褐 細  $\bigcirc\bigcirc$  As-C・Hr-FA10%、焼土粒・ロームブロック・ローム粒 5%
- 3 黒褐 細  $\bigcirc\bigcirc$  As-C・Hr-FA・ロームブロック・ローム粒 5%
- 4 黒 細 ○○ Hr-FA・ローム粒3%
- 5 黒 細  $\bigcirc\bigcirc$  As-C・Hr-FA 5 %
- 6 黒 細 ○○ As-C・Hr-FA 2 %、焼土粒 1 %
- 7 暗褐 細 ○○ As-C・Hr-FA 2 %、粘土ブロック・焼土ブロック20%

## H-3号住居跡 竈セクション

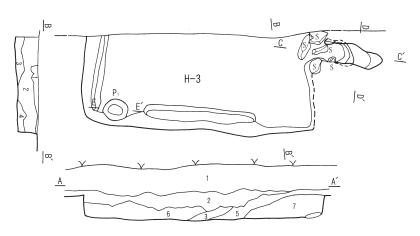
- 細 △△ As-C・Hr-FA 5 %、焼土粒 2 % 1 暗褐
- 2 暗赤褐 細 △△ 焼土主体。As-C・Hr-FA 2 %
- 3 極暗赤褐 細 ×× 焼土ブロック20%、ロームブロック10%
- 4 赤褐 細 ×× 焼土主体。ロームブロック5%
- 5 赤褐 細 ×× 焼土主体。
- 6 極暗赤褐 微 ○○ 粘土主体。焼土ブロック・ロームブロック 5 %

#### H-3号住居跡 柱穴計測表

No.	形	状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
$P_1$	円	形	40	35	21.0	

# H-1号住居跡 柱穴計測表

No.	形	状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
$P_1$	楕₽	形	32	20	12.5	
$P_2$	円	形	42	42	9.0	
P 5	円	形	44	40	18.0	貯蔵穴



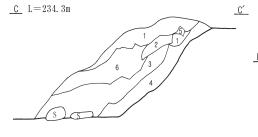
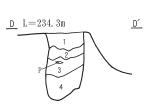
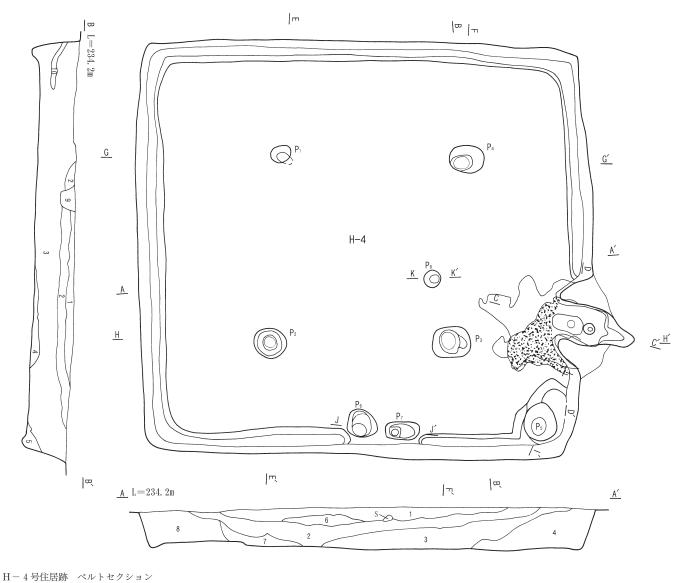


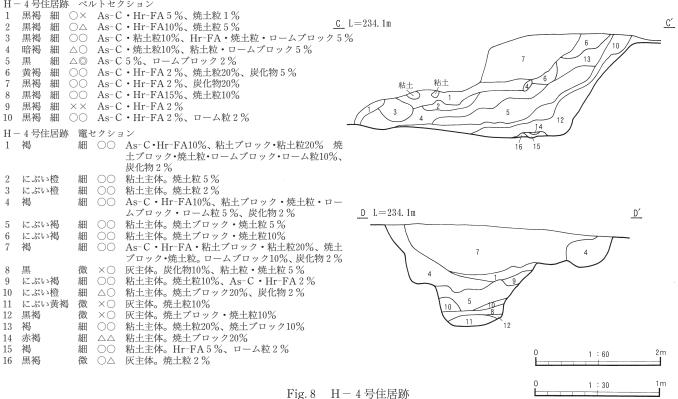


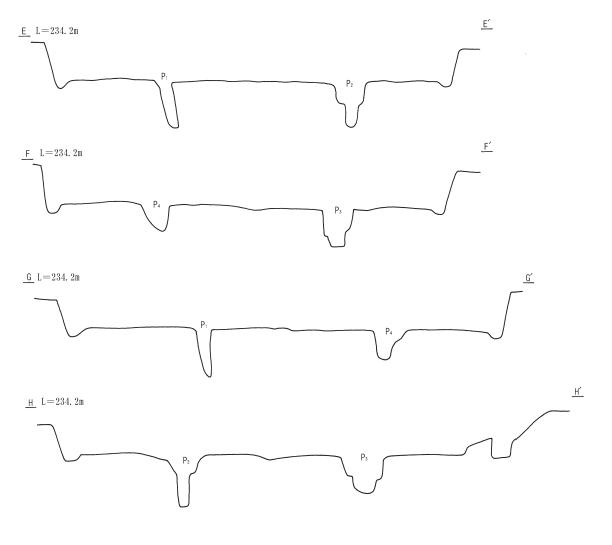
Fig. 7 H-1~3 号住居跡

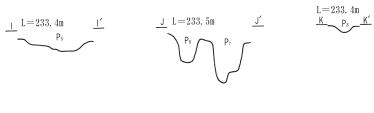






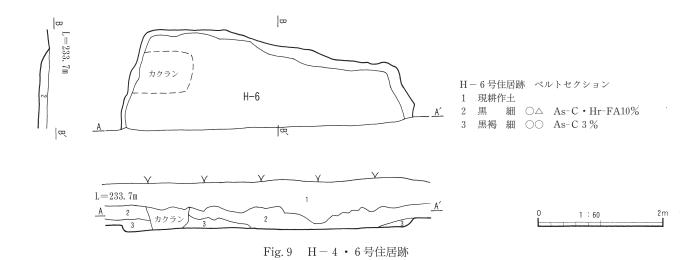






H-4号住居跡 柱穴計測表

11	1 7 11./11	P/J (11)	002		
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
$P_1$	楕円形	32	26	74.0	
$P_2$	円形	52	48	76.0	
$P_3$	楕円形	60	50	57.5	
$P_4$	楕円形	54	44	41.5	
P 5	楕円形	108	60	21.5	貯蔵穴
P 6	楕円形	50	40	41.5	
P 7	長方形	54	30	62.5	
$P_8$	円形	28	28	11.0	



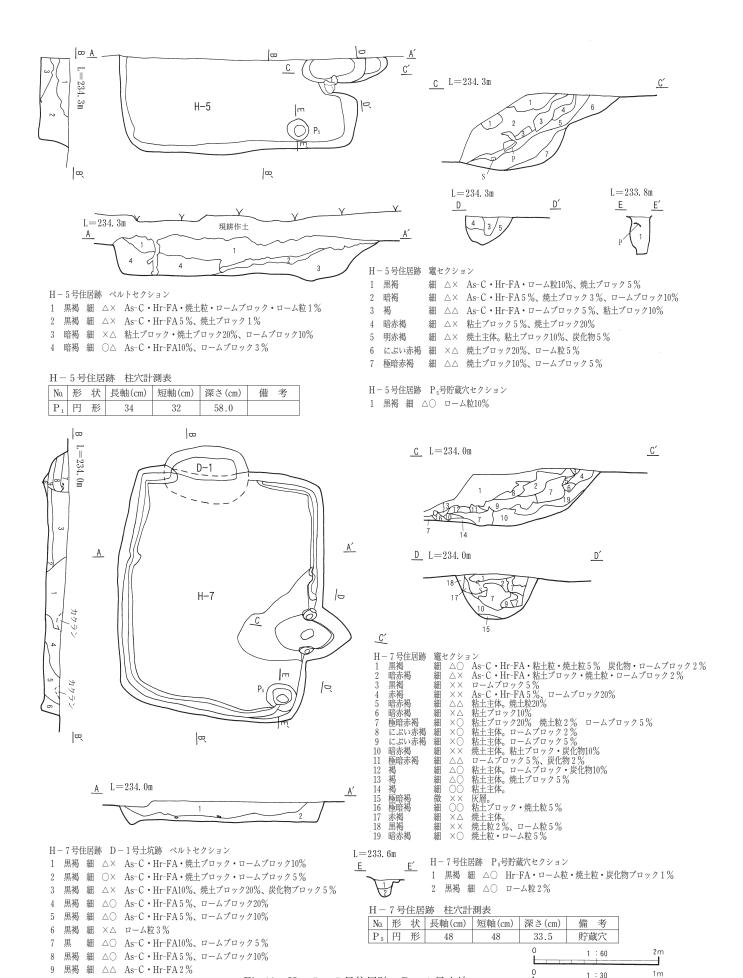
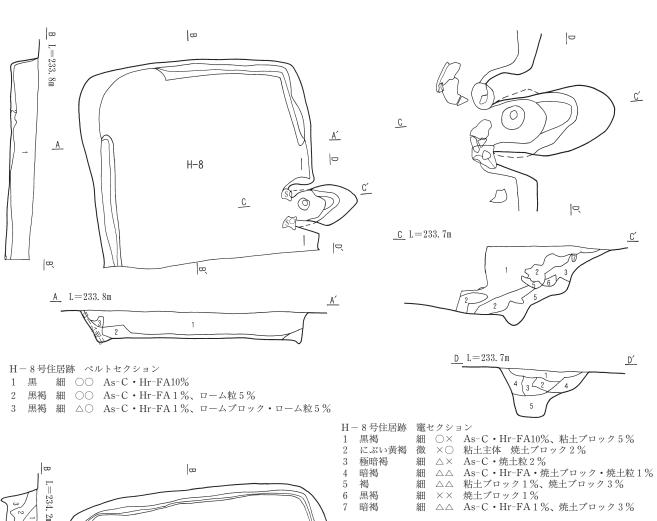
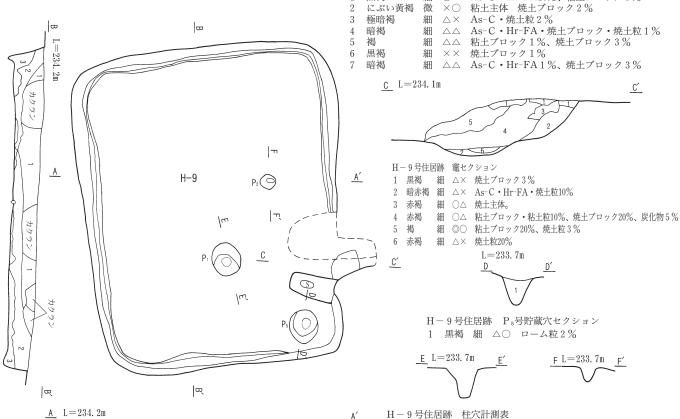


Fig.10 H-5 • 7号住居跡、D-1号土坑





H-9号住居跡 ベルトセクション

1 黒褐 細 ○○ As-C・Hr-FA 20% 焼土粒・炭化物10%

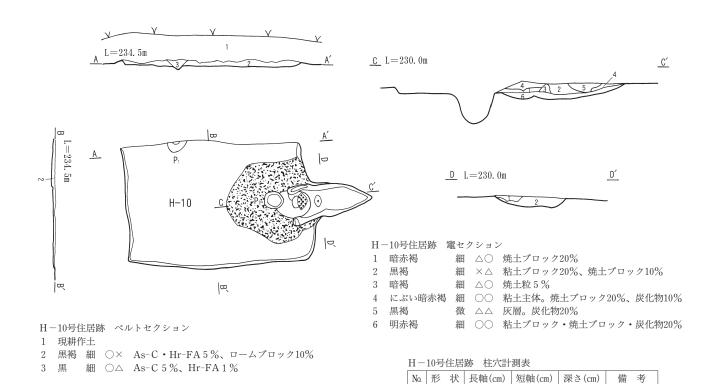
細 ○○ As-C・Hr-FA 10% 焼土粒・炭化物 3 %

3 暗褐 細 △○ As-C・Hr-FA 3% ロームブロック・ローム粒5%

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
$P_1$	円形	50	48	48.0	
$P_2$	円形	26	26	21.5	
P 5	楕円形	54	46	43.0	貯蔵穴

1:30

Fig.11	Н —	8 •	9	号住居跡
--------	-----	-----	---	------



P1 (楕円形)

P2 円 形

32

(16)

22.0

22.5

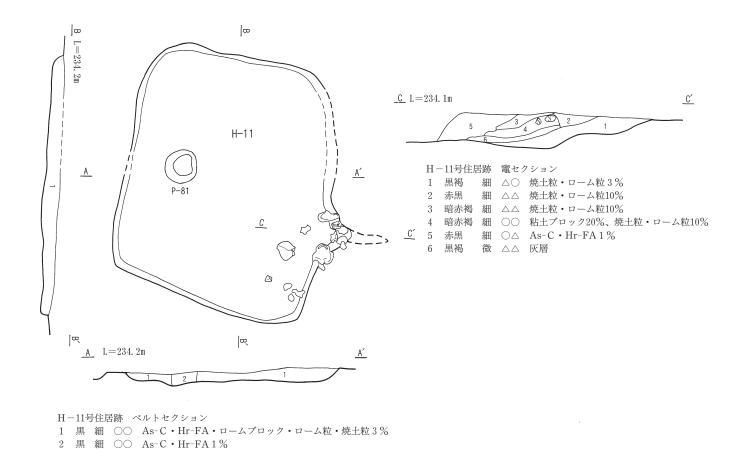


Fig.12 H-10·11号住居跡

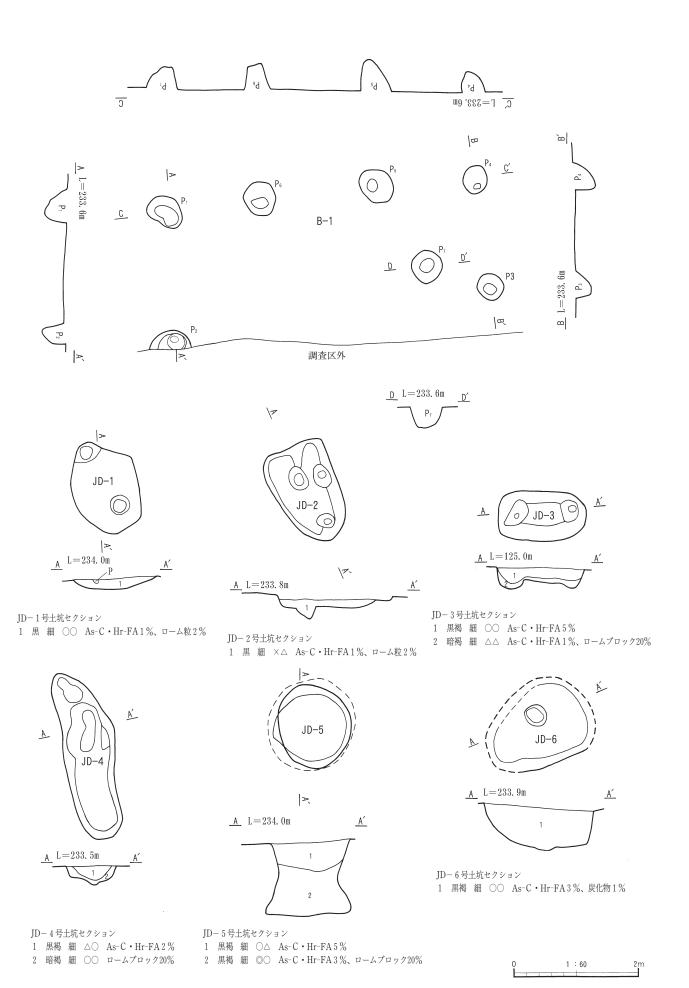
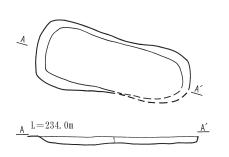
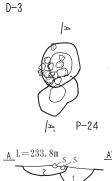


Fig.13 B-1号掘建柱建物跡、 $JD-1\sim6$ 号縄文土坑

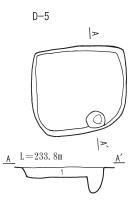


D-2号土坑セクション

1 黒褐 細  $\triangle$ 〇 Hr-FA1%、ロームブロック・ローム粒 5%



<u>A</u>′



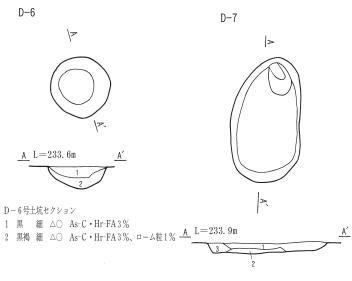
D-5号土坑セクション

1 黒 細 △○ As-C・Hr-FA 3 %、ローム粒 1 %

D-3号土坑跡 P-24号柱穴セクション

1 黒褐 細 △○ As-C・Hr-FA 2 %

2 黒 細 △○ As-C・Hr-FA5%、ローム粒1%

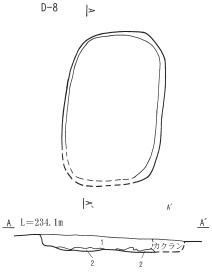


D-7号土坑セクション

1 黒褐 細 ○△ As-C・Hr-FA 5 %

2 暗褐 細 △× ローム粒20%

3 黒褐 細 △× ロームブロック20%



D-8号土坑セクション

1 黒褐 細 ○△ As-C・Hr-FA5%

2 暗褐 細 △× ローム粒20%

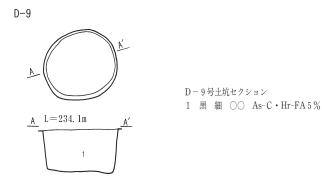
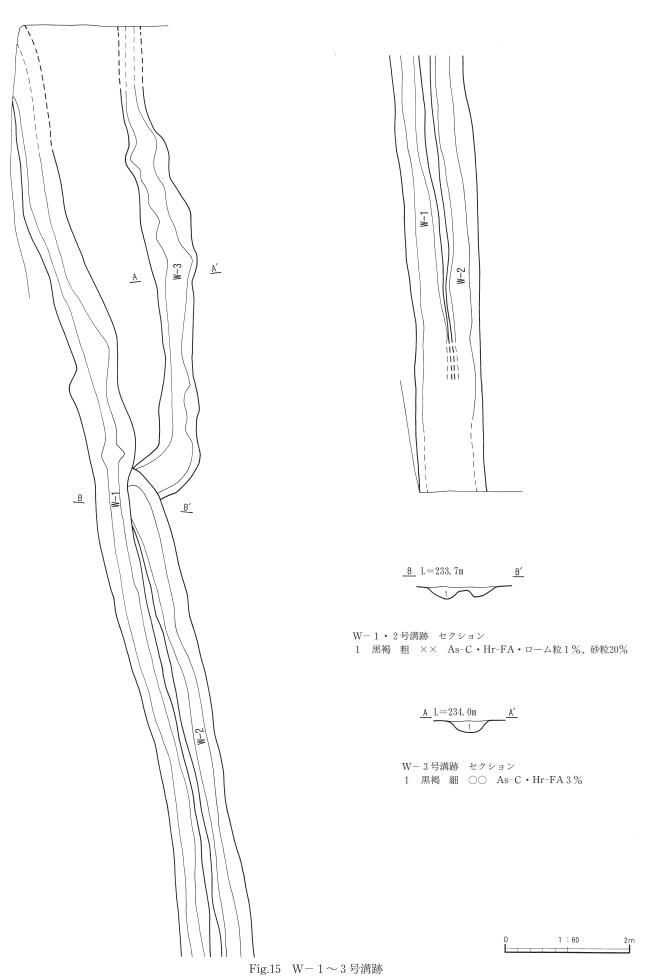
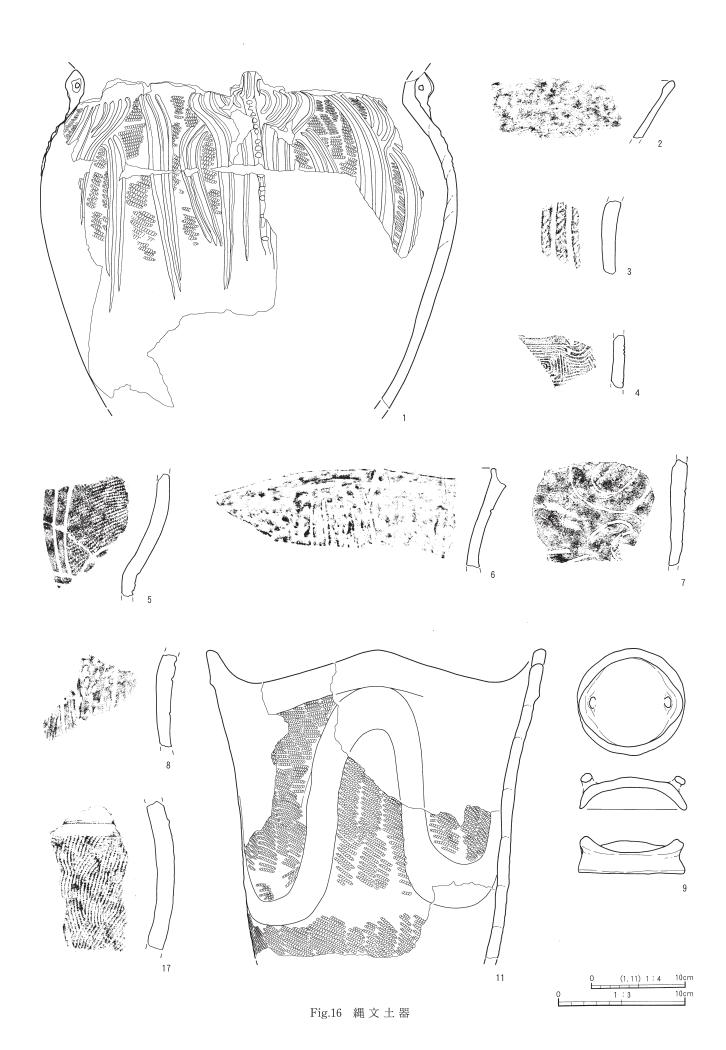


Fig.14 D-2・3・5~9号土坑、P-24号ピット

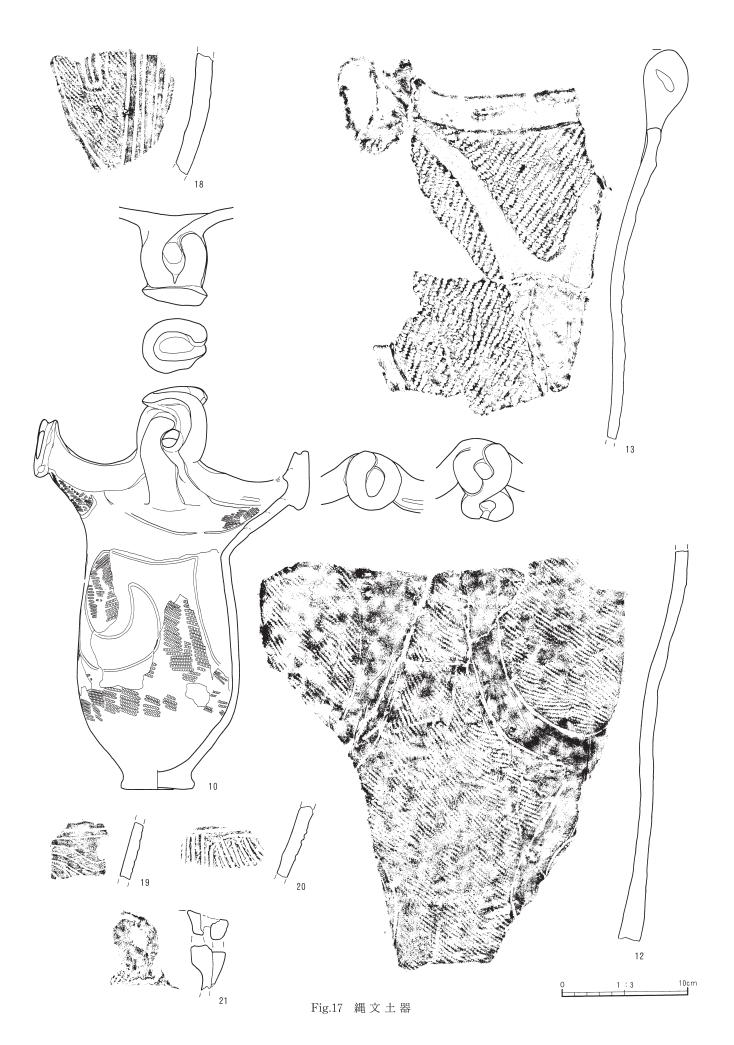




1g.10 W 1 0 7 H+W



-30 -



-31 -

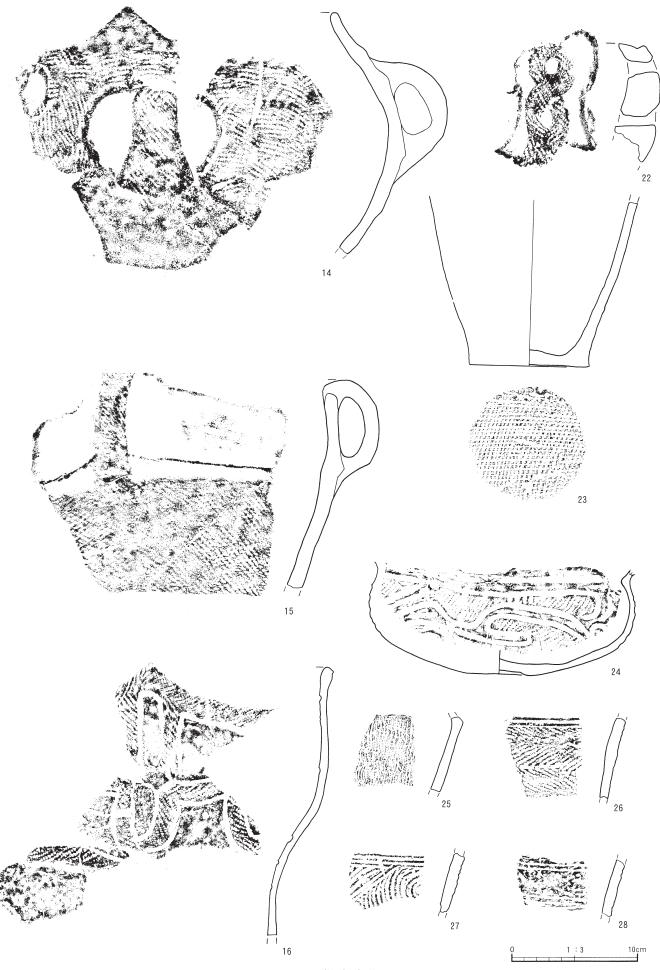
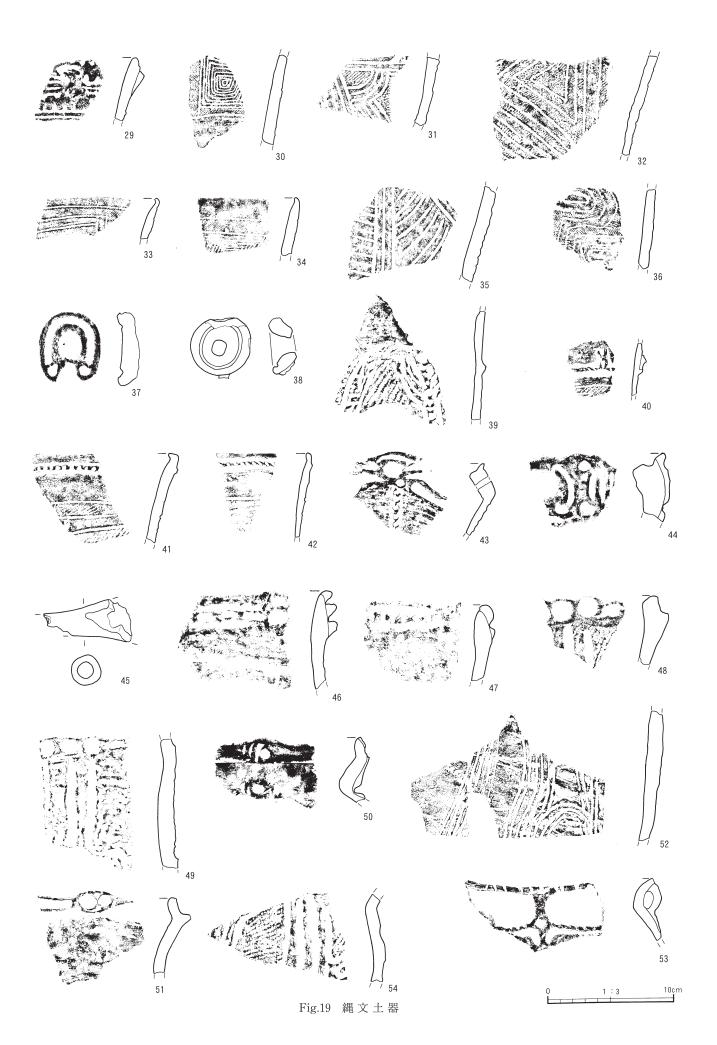
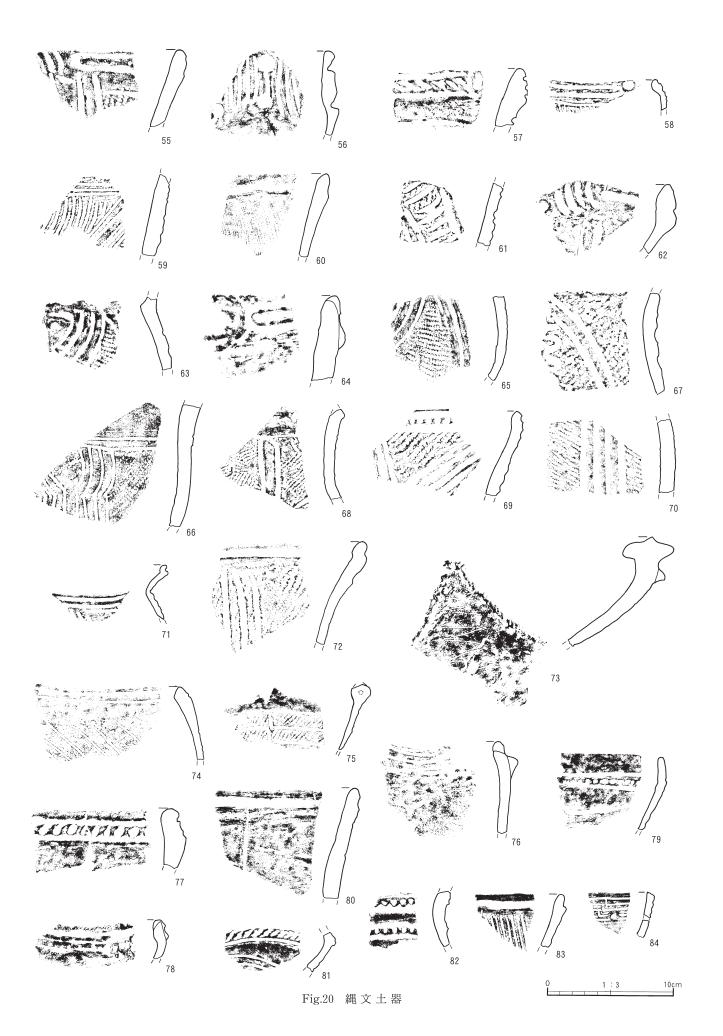
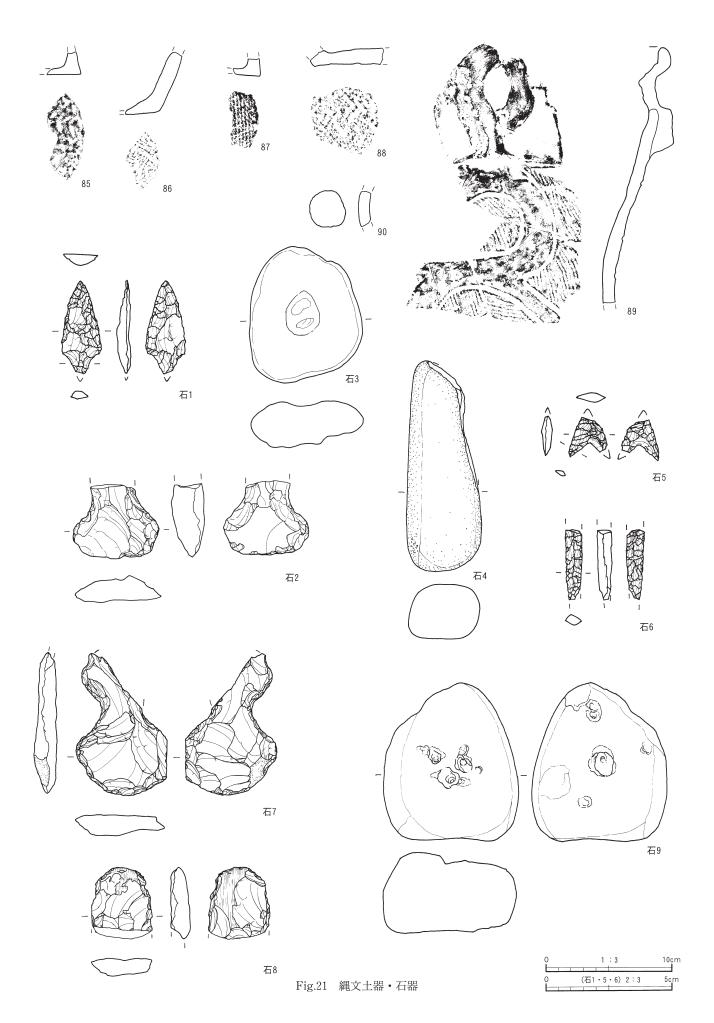


Fig.18 縄文土器







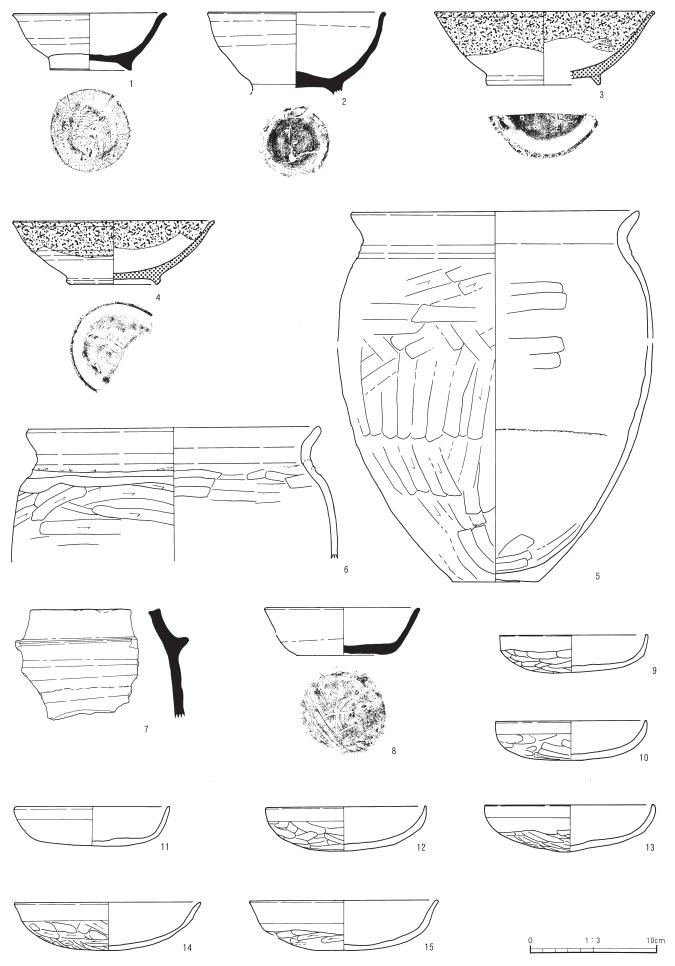
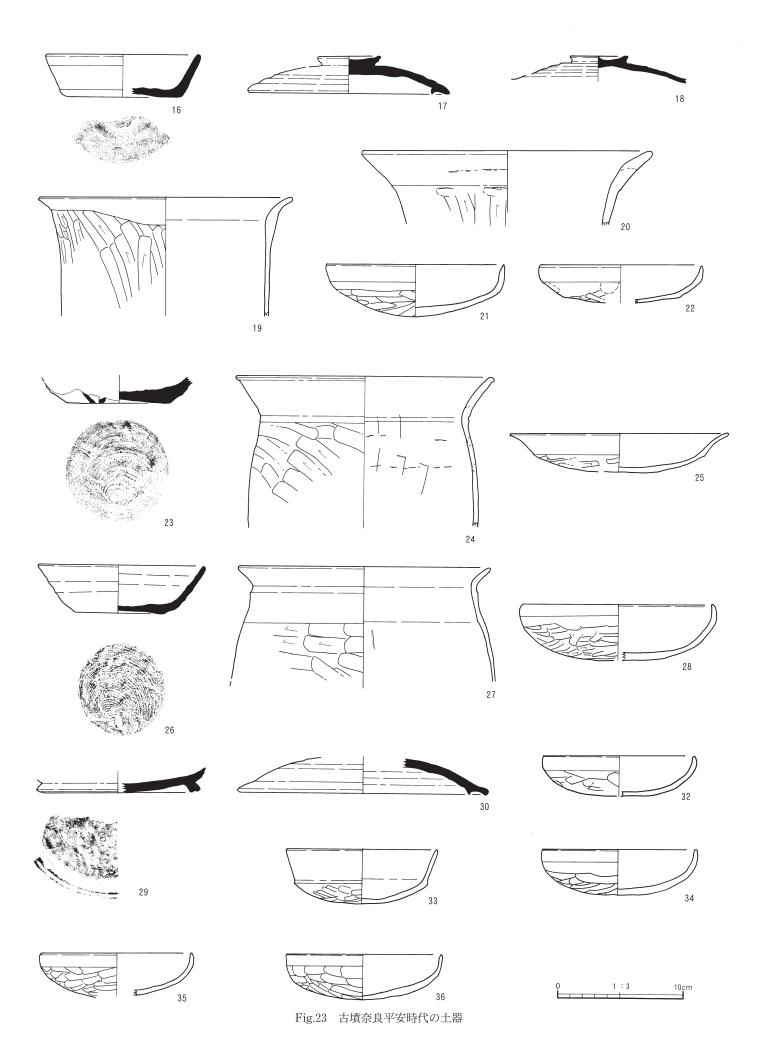
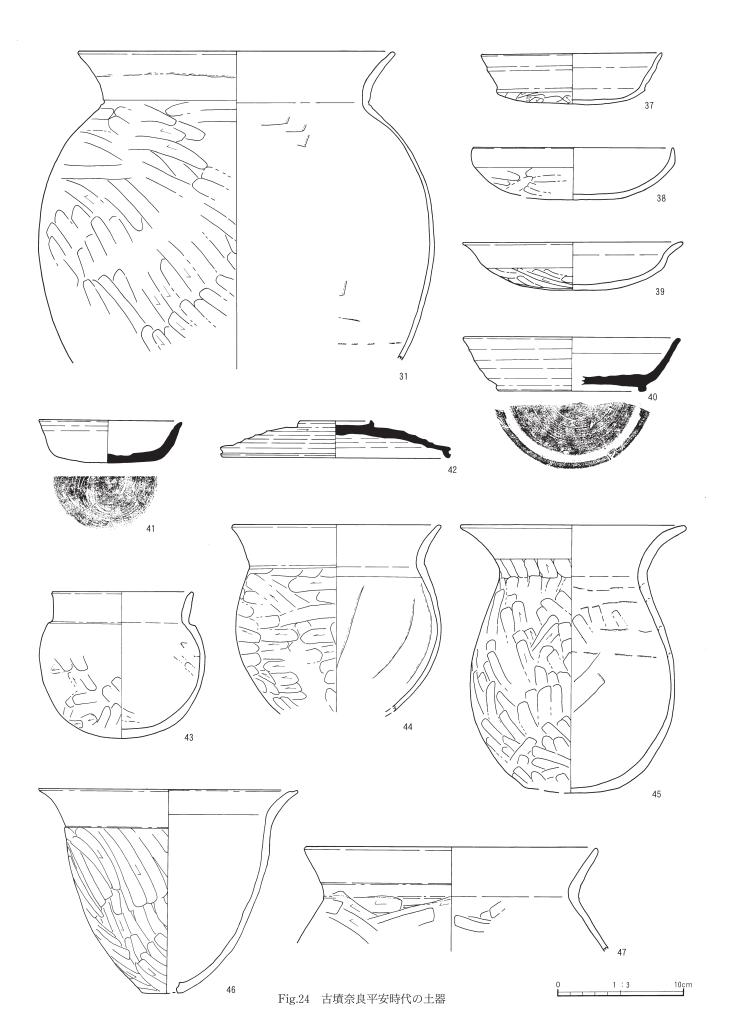
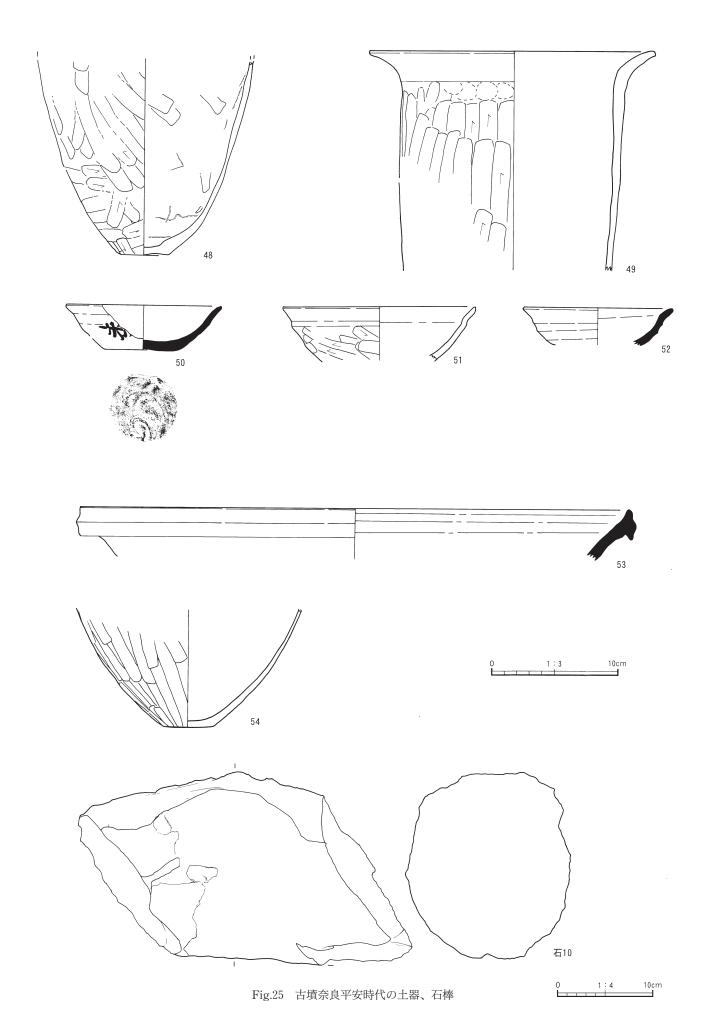
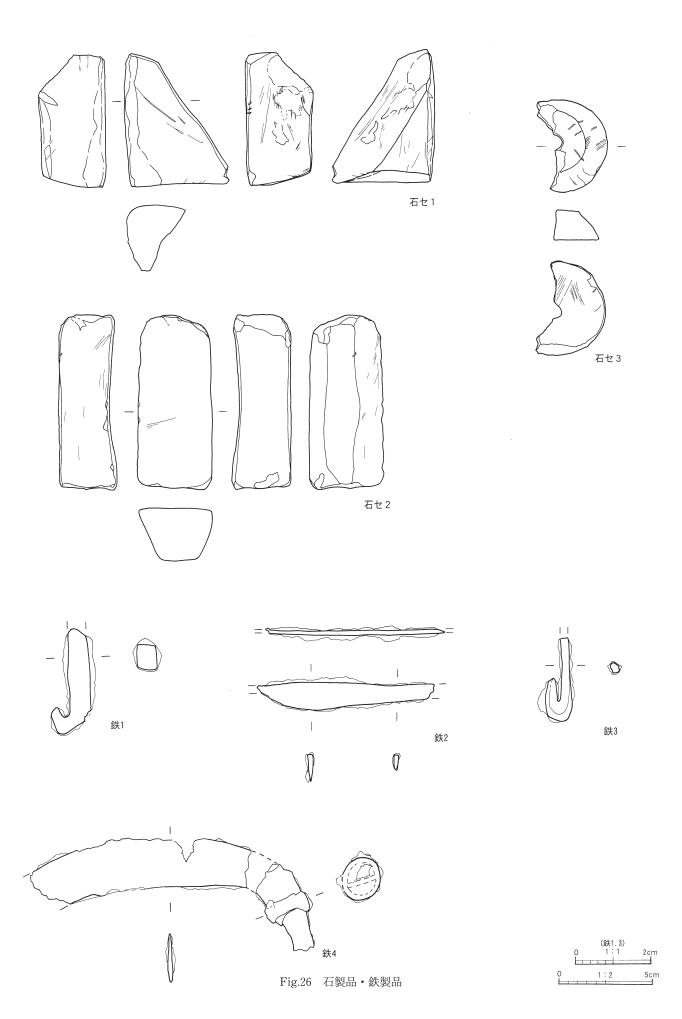


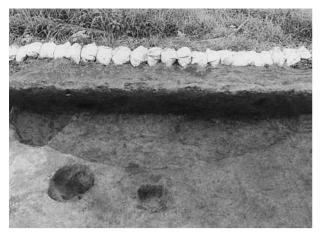
Fig.22 古墳奈良平安時代の土器



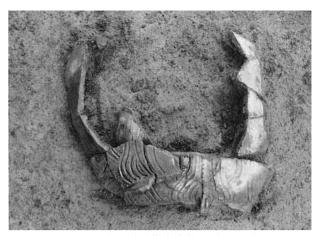








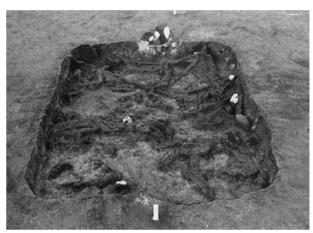
J-1号住居跡全景(南から)



J-1号住居跡遺物出土状況 (西から)



J-2号住居跡全景(南から)



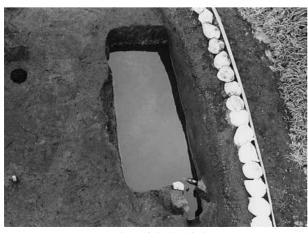
H-1号住居跡全景(西から)



H-1号住居跡竈内遺物出土状況 (西から)



H-2号住居跡全景(北から)



H-3号住居跡全景(真上から)



H-3号住居跡竈全景(西から)





H-4号住居跡竈全景(西から)



H-5号住居跡全景(真上から)



H-6号住居跡全景(北から)



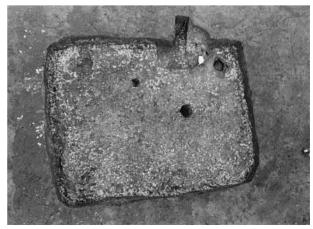
H-7号住居跡全景(西から)



H-8号住居跡全景(北から)



H-8号住居跡竈全景(真上から)



H-9号住居跡全景(西から)



H-9号住居跡遺物出土状況(南から)



H-9号住居跡柱穴内遺物出土状況 (南から)



H-10号住居跡全景(真上から)



H-11号住居跡全景(西から)



B-1号掘立柱建物跡全景(北から)



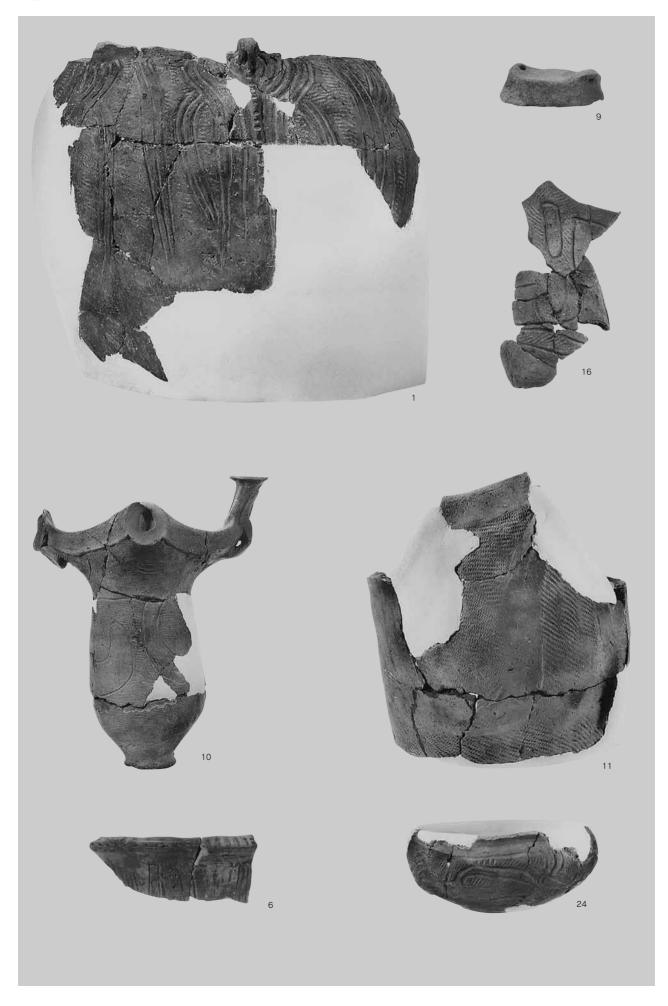
JD-5号土坑全景(南から)

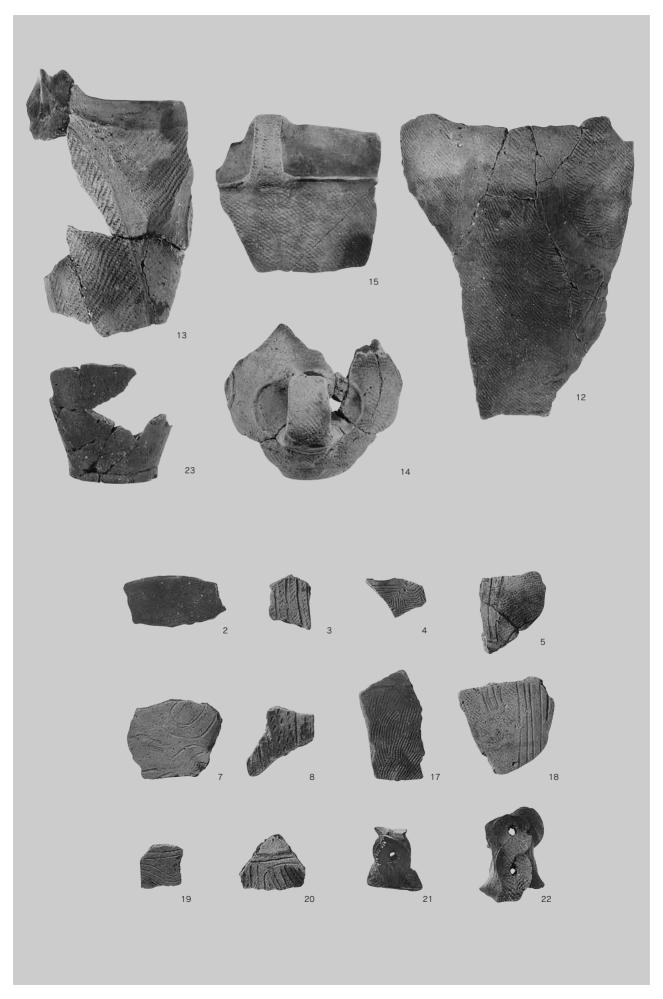


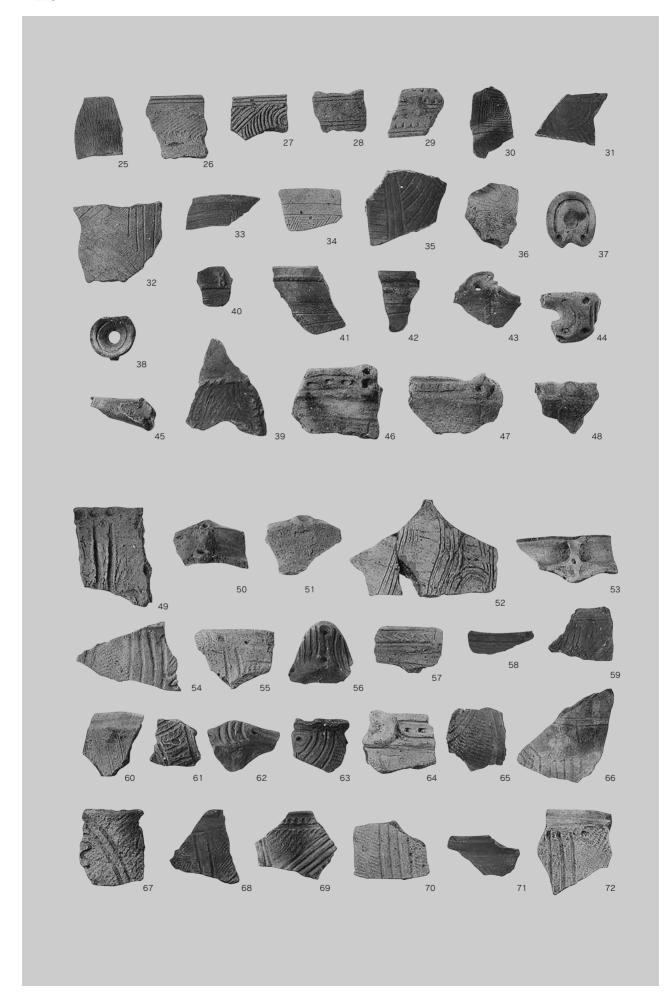
JD-6号土坑遺物出土状況(南から)

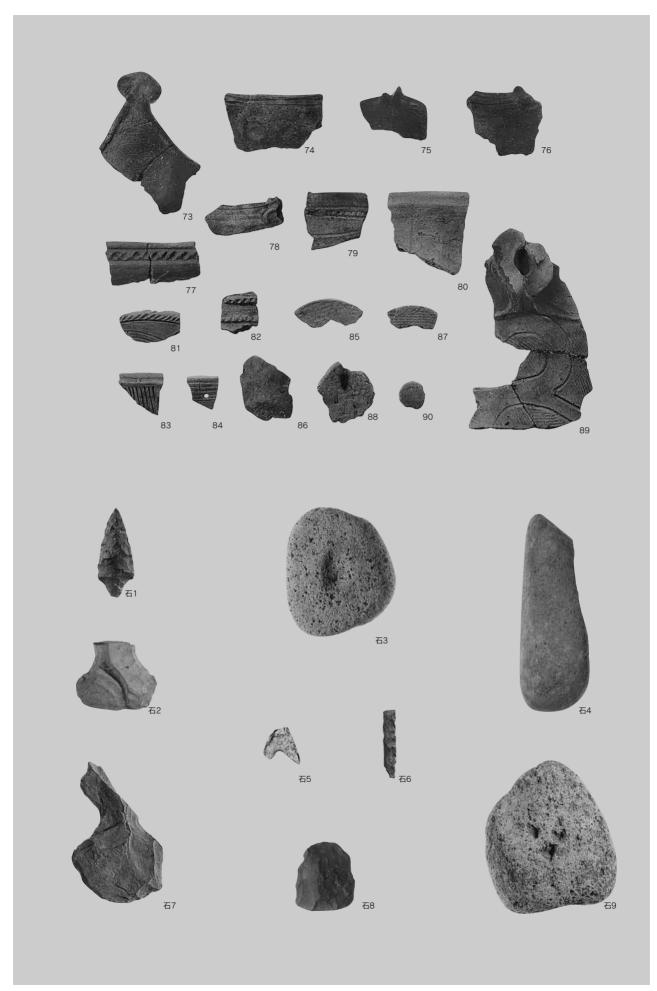


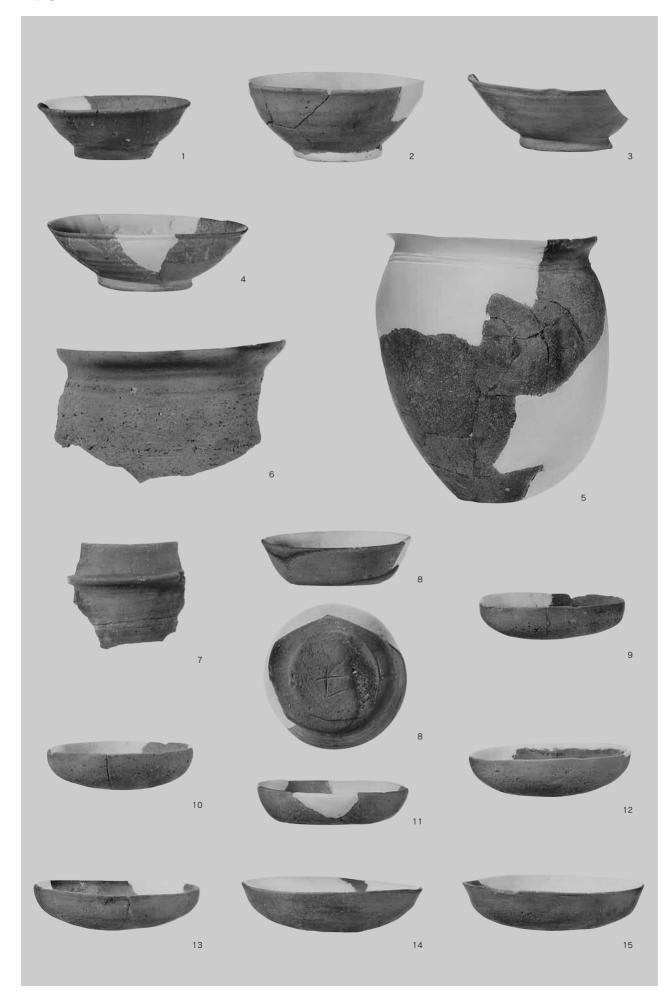
X6Y4グリッド遺物出土状況 (西から)

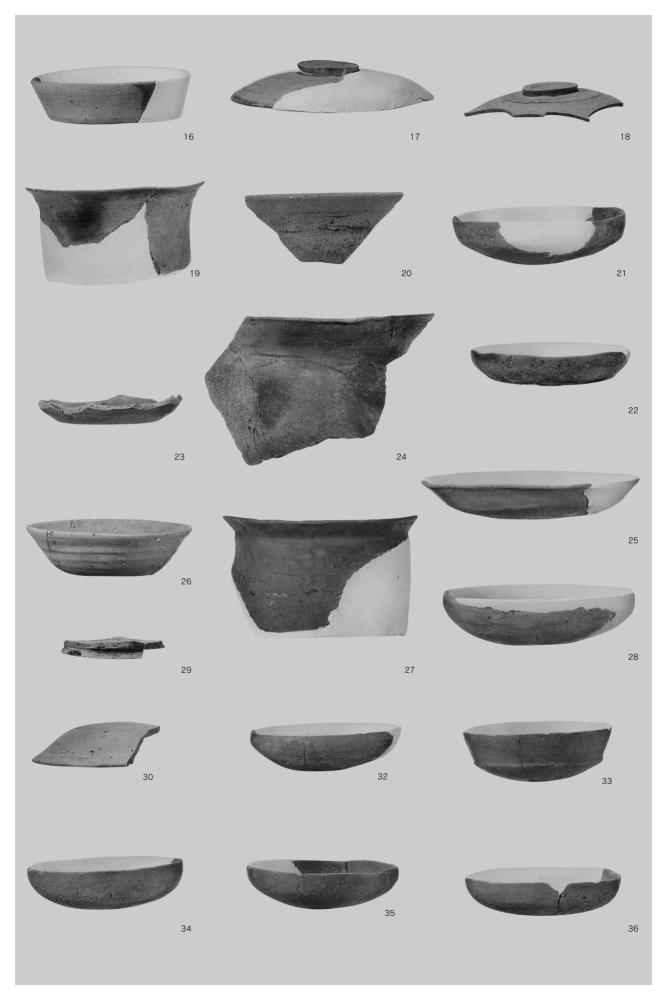


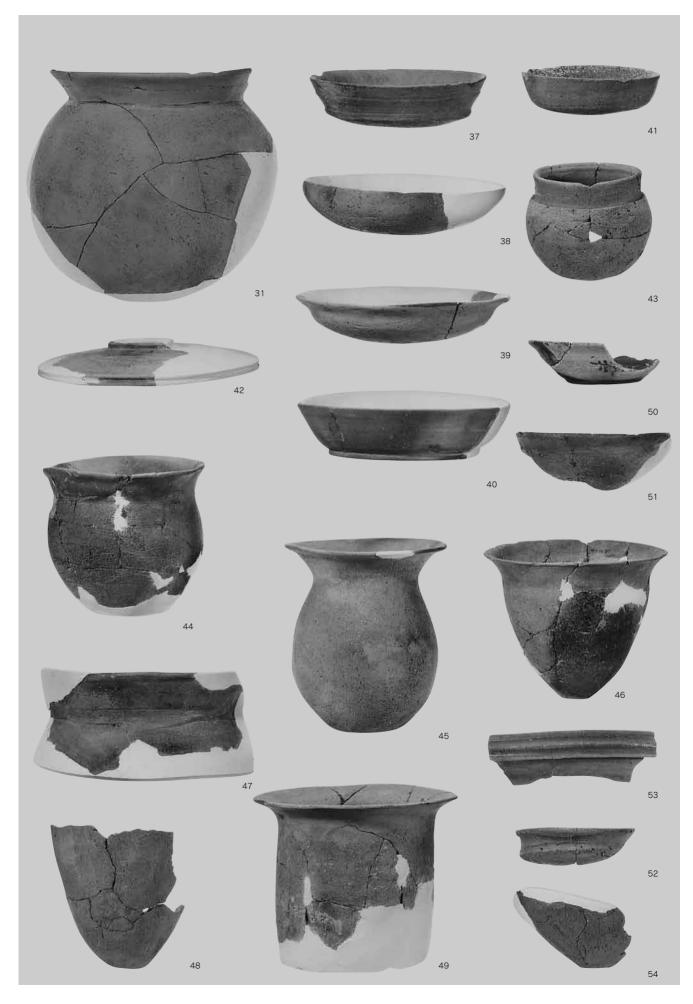














## 抄 録

フリガナ	ババヒガシヤツギイセキ						
書名	馬場東矢次遺跡						
副 書 名	農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
編著者名	髙橋 亨 ・ 神宮 聡						
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団						
編集機関所在地 〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2							
発 行 年 月 日 西暦2007年3月22日							

フリガナ所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コード		位	置	======================================	細木石徒	調水匠田
		市町村	遺跡番号	北緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
パパレガシャッギィセキ馬場東矢次遺跡	前橋市馬場町 422-8	10201	18 J 1	36°25′52″	139°11′59″	20060516	1,172m²	農業資富 集濟領 業濟領 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構主な遺物	特記事項
馬場東矢次遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡 2 軒、土坑 6 基       縄文土器、石器       ほか         竪穴住居跡 2 軒、       土師器、須恵器       ほか         竪穴住居跡 9 軒、土坑 9 基       土師器、須恵器       ほか	なし

## 馬場東矢次遺跡

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市三俣町二丁目10-2 TEL 027-231-9531

印刷 所 朝日印刷工業株式会社